

# 官報

號外 昭和十八年二月十六日

## ○帝國議會貴族院議事速記錄第九號

昭和十八年二月十五日(月曜日)午前十時五分開議

議事日程 第九號  
昭和十八年二月十五日

午前十時開議

第一 請願委員長報告

第二 臨時利得稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第三 臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

衆議院送付)

第五 酒造組合法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第六 清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第七 取引所稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第八 砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第九 物品稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十 遊艇飲食稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十一 入場稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十二 特別行爲稅法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十三 輸出スル物品ニ對スル内國稅  
免除又ハ交付金交付ノ停止等ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十四 昭和十八年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十五 営繕用品資金特別會計法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十六 造幣局ノ資金ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十七 昭和十五年法律第六十九號中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十八 横太内地行政一元化ニ伴フ樺太廳特別會計ト他ノ會計トノ關涉ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十九 昭和十二年法律第八十號改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二十 朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二十一 朝鮮簡易生命保險及郵便年金特別會計法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二十二 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二十三 臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二十四 戰時刑事特別法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第二十五 奧羽本線横手、羽越本線羽後本莊ノ兩驛間ヲ豫定線ニ編入シ横

法律案(政府提出、衆議院送付)

第二十六 長岡鐵道貢收ノ請願會

第一讀會

第二十七 北越線鐵道敷設ノ請願會

第一讀會

第二十八 飯山鐵道貢收ノ請願會

第一讀會

第二十九 官幣中社生田神社造營費國庫支辨ニ關スル請願會

第一讀會

第三十 古事記正解ノ研究機關設置ノ請願會

第一讀會

第三十一 奧羽本線十文字、陸羽東線鳴子ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願(文書表第十七號)

第一讀會

第三十二 奧羽本線十文字、陸羽東線鳴子ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願(文書表第十八號)

第一讀會

第三十三 天龍川改修工事實施速成ノ請願會

第一讀會

第三十四 公立學校職員功加俸國庫補助法中改正法律案特別委員會

第一讀會

第二十 伯爵島津忠承君  
同日委員長 伯爵兒玉秀雄君  
副委員長 男爵安場保健君

第三十五 男爵秋田重季君

第三十六 男爵伊江朝助君

第三十七 男爵稻田昌植君

第三十八 伯爵松平賴壽君

第三十九 伯爵黒木三次君

第四十 伯爵稻田昌植君

第四十一 伯爵稻田昌植君

第四十二 伯爵稻田昌植君

第四十三 伯爵稻田昌植君

第四十四 伯爵稻田昌植君

第四十五 伯爵稻田昌植君

第四十六 伯爵稻田昌植君

第四十七 伯爵稻田昌植君

第四十八 伯爵稻田昌植君

第四十九 伯爵稻田昌植君

第五十 伯爵稻田昌植君

第五十一 伯爵稻田昌植君

第五十二 伯爵稻田昌植君

第五十三 伯爵稻田昌植君

第五十四 伯爵稻田昌植君

第五十五 伯爵稻田昌植君

第五十六 伯爵稻田昌植君

第五十七 伯爵稻田昌植君

第五十八 伯爵稻田昌植君

第五十九 伯爵稻田昌植君

第六十 伯爵稻田昌植君

第六十一 伯爵稻田昌植君

第六十二 伯爵稻田昌植君

第六十三 伯爵稻田昌植君

第六十四 伯爵稻田昌植君

第六十五 伯爵稻田昌植君

第六十六 伯爵稻田昌植君

第六十七 伯爵稻田昌植君

第六十八 伯爵稻田昌植君

第六十九 伯爵稻田昌植君

第七十 伯爵稻田昌植君

第七十一 伯爵稻田昌植君

第七十二 伯爵稻田昌植君

第七十三 伯爵稻田昌植君

第七十四 伯爵稻田昌植君

第七十五 伯爵稻田昌植君

第七十六 伯爵稻田昌植君

第七十七 伯爵稻田昌植君

第七十八 伯爵稻田昌植君

第七十九 伯爵稻田昌植君

第八十 伯爵稻田昌植君

第八十一 伯爵稻田昌植君

第八十二 伯爵稻田昌植君

第八十三 伯爵稻田昌植君

第八十四 伯爵稻田昌植君

第八十五 伯爵稻田昌植君

第八十六 伯爵稻田昌植君

第八十七 伯爵稻田昌植君

第八十八 伯爵稻田昌植君

第八十九 伯爵稻田昌植君

第九十 伯爵稻田昌植君

第九十一 伯爵稻田昌植君

第九十二 伯爵稻田昌植君

第九十三 伯爵稻田昌植君

第九十四 伯爵稻田昌植君

第九十五 伯爵稻田昌植君

第九十六 伯爵稻田昌植君

第九十七 伯爵稻田昌植君

第九十八 伯爵稻田昌植君

第九十九 伯爵稻田昌植君

第一百 伯爵稻田昌植君

第一百一 伯爵稻田昌植君

第一百二 伯爵稻田昌植君

第一百三 伯爵稻田昌植君

第一百四 伯爵稻田昌植君

第一百五 伯爵稻田昌植君

第一百六 伯爵稻田昌植君

第一百七 伯爵稻田昌植君

第一百八 伯爵稻田昌植君

第一百九 伯爵稻田昌植君

第一百十 伯爵稻田昌植君

第一百十一 伯爵稻田昌植君

第一百十二 伯爵稻田昌植君

第一百十三 伯爵稻田昌植君

第一百十四 伯爵稻田昌植君

第一百十五 伯爵稻田昌植君

第一百十六 伯爵稻田昌植君

第一百十七 伯爵稻田昌植君

第一百十八 伯爵稻田昌植君

第一百十九 伯爵稻田昌植君

第一百二十 伯爵稻田昌植君

第一百二十一 伯爵稻田昌植君

第一百二十二 伯爵稻田昌植君

第一百二十三 伯爵稻田昌植君

第一百二十四 伯爵稻田昌植君

第一百二十五 伯爵稻田昌植君

第一百二十六 伯爵稻田昌植君

第一百二十七 伯爵稻田昌植君

第一百二十八 伯爵稻田昌植君

第一百二十九 伯爵稻田昌植君

第一百三十 伯爵稻田昌植君

第一百三十一 伯爵稻田昌植君

第一百三十二 伯爵稻田昌植君

第一百三十三 伯爵稻田昌植君

第一百三十四 伯爵稻田昌植君

第一百三十五 伯爵稻田昌植君

第一百三十六 伯爵稻田昌植君

第一百三十七 伯爵稻田昌植君

第一百三十八 伯爵稻田昌植君

第一百三十九 伯爵稻田昌植君

第一百四十 伯爵稻田昌植君

第一百四十一 伯爵稻田昌植君

第一百四十二 伯爵稻田昌植君

第一百四十三 伯爵稻田昌植君

第一百四十四 伯爵稻田昌植君

第一百四十五 伯爵稻田昌植君

第一百四十六 伯爵稻田昌植君

第一百四十七 伯爵稻田昌植君

第一百四十八 伯爵稻田昌植君

第一百四十九 伯爵稻田昌植君

第一百五十 伯爵稻田昌植君

第一百五十一 伯爵稻田昌植君

第一百五十二 伯爵稻田昌植君

第一百五十三 伯爵稻田昌植君

第一百五十四 伯爵稻田昌植君

第一百五十五 伯爵稻田昌植君

第一百五十六 伯爵稻田昌植君

第一百五十七 伯爵稻田昌植君

第一百五十八 伯爵稻田昌植君

第一百五十九 伯爵稻田昌植君

第一百六十 伯爵稻田昌植君

第一百六十一 伯爵稻田昌植君

第一百六十二 伯爵稻田昌植君

第一百六十三 伯爵稻田昌植君

第一百六十四 伯爵稻田昌植君

第一百六十五 伯爵稻田昌植君

第一百六十六 伯爵稻田昌植君

第一百六十七 伯爵稻田昌植君

第一百六十八 伯爵稻田昌植君

第一百六十九 伯爵稻田昌植君

第一百七十 伯爵稻田昌植君

第一百七十一 伯爵稻田昌植君

第一百七十二 伯爵稻田昌植君

第一百七十三 伯爵稻田昌植君

第一百七十四 伯爵稻田昌植君

第一百七十五 伯爵稻田昌植君

第一百七十六 伯爵稻田昌植君

第一百七十七 伯爵稻田昌植君

第一百七十八 伯爵稻田昌植君

第一百七十九 伯爵稻田昌植君

第一百八十 伯爵稻田昌植君

第一百八十一 伯爵稻田昌植君

第一百八十二 伯爵稻田昌植君

第一百八十三 伯爵稻田昌植君

第一百八十四 伯爵稻田昌植君

第一百八十五 伯爵稻田昌植君

第一百八十六 伯爵稻田昌植君

第一百八十七 伯爵稻田昌植君

第一百八十八 伯爵稻田昌植君

第一百八十九 伯爵稻田昌植君

第一百九十 伯爵稻田昌植君

第一百九十一 伯爵稻田昌植君

第一百九十二 伯爵稻田昌植君

第一百九十三 伯爵稻田昌植君

第一百九十四 伯爵稻田昌植君

第一百九十五 伯爵稻田昌植君

第一百九十六 伯爵稻田昌植君

第一百九十七 伯爵稻田昌植君

第一百九十八 伯爵稻田昌植君

第一百九十九 伯爵稻田昌植君

第二百 伯爵稻田昌植君



萬圓ノ壓縮ヲ加ヘマシタ、三、陸海軍兩省所管ノ經費ニ付キマシテハ、本省費以外ノ經費ハ、舉ゲテ臨時軍事費支辨致シタ等デアリマス、次ニ歳入豫算ニ付説明致シマス、歳入豫算ノ總額ハ、歳出豫算ノ總額ト同ジク本豫算計上ノ分九十九億九千五百餘萬圓、追加豫算第一號計上ノ分二十三億四千五百餘萬圓、追加豫算第二號計上ノ分九億三千四百餘萬圓、計百三十二億七千五百餘萬圓デアリマシテ、其ノ内譯ハ、租稅其ノ他ノ普通歲入九十七億三千八百餘萬圓、前年度剩餘金繰入三億三千餘萬圓、公債金三十二億六百餘萬圓デアリマス、普通歲入ノ大宗タル租稅收入ハ、經常臨時ノ兩部ヲ合セマシテ其ノ總額七十五億九千餘萬圓デアリマシテ、之ヲ前年度豫算額ニ比較致シマスレバ、十八億一千九百餘萬圓ノ増加ト相成ツテ居リマス、此ノ内譯ハ、自然增收等ニ屬スル分六億六千六百餘萬圓、昭和十七年度ニ於ケル直接稅等ノ増稅ニ基ク分一億五千五百餘萬圓、今期議會提出ニ係ル間接稅等ノ增新稅等ニ基ク分十億七百餘萬圓デアリマス、申ス迄モナク納稅成績ノ良否ハ、戰時財政經濟ノ運營上極メテ重要ナル影響ヲ有スルモノデアリマスルガ、支那事變以來、數次ノ增稅ニ依リ負擔ノ加重セラタルニモ拘ラズ、統後國民ノ熱烈ナル愛國心ニ依リ、概ネ良好ナル成績ヲ示シテ居リマスコトハ、後ニ申述ベマスル國民貯蓄增加戦局ガ決戦階段ニ入ルニ伴ヒマシテ、戰力増強ノ爲必要ナル財政負擔ハ愈々增加致スデアリマスル、対ヒマシテ今回更ニ間接

税ヲ中心トスル増稅ヲ行フコトト致シ、別途之ニ關スル法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、此ノ増稅ノ趣旨ハ、國民ノ消費費活ノ爲需要セラレル物資、勞力、資金等ヲ、萬圓ニ上ルノデアリマス、是ハ既ニ實行シテ期スルモノデアリマシテ、之ニ依ツテ得ラルベキ歲入増加額ハ、平年度約十一億四千九百圓ニ上ルノデアリマスガ、其ノ昭和十七十八兩年度ニ於ケル增收額ハ、過日御協贊ヲ經マシタ臨時軍事費ノ財源ニ繰入レルノデアリマス、斯クシテ國民ノ租稅負擔ハ益々増加致スノデアリマスガ、而モ國民ハ欣然トシテ之ヲ擔ヒ抜カムトスル決意ヲ示シテ居ルノデアリマス、此ノコトハ我國ノ柄ノ然ラシムル所デアリマシテ、誠ニ有難ハ欣然トシテ之ヲ擔ヒ抜カムトスル決意ヲ示シテ居ルノデアリマスガ、政府ト致シマシニテイコトデアリマスルガ、斯様ナ國民ノ心持ニ應ヘテ、尙更ニ租稅行政ヲ確實ナラシメムトスル考デアリマス、勿論納稅ハ國民ノ義務デアリ、徵稅ハ國家ノ權力ニ依ルモノデアリマスルガ、壯ノ權力トカ義務トカト申ス言葉ニ伴ヒ勝チズベキモノト信ズルノデアリマス、今日ニ於キマシテハ、納稅スル者モ徵稅ノ任ニ當ル者モ眞ニ一體トナリマシテ、相協力シテ我ガ戰時財政經濟ヲシテ愈、確乎不動ノモノタラシメネバナラナイト思フノデアリマス、尙政府ニ於キマシテハ、租稅負擔ノ增加ニ伴ヒ、租稅政策ト他ノ戰時經濟政策トノ調整ヲナス爲、臨時租稅措置法ノ改正ヲ行フコトトシ、別途御審議ヲ願ヒマスルト共ニ、又過般御審議ヲ經マシタル納稅設施法

ヲ制定シテ、國民ノ納稅ノ履行ヲ容易ナラシメ、併セテ國民貯蓄ノ增强等ニ資セムト致シテ居ルノデアリマス、租稅以外ノ普通歲入ニ付キマシテハ、二十一億四千八百餘萬圓ヲ計上致シテ居リマスルガ、是ハ前年度豫算ニ比較致シマシテ、五億四百餘萬圓ノ増加ト相成ツテ居リマス、又公債金收入ハ、前ニ申述ベマシタ通り三十二億六百餘萬圓デアリマシテ、之ヲ前年度ニ比シ十六億八千餘萬圓ヲ増加致シテ居リマス、次ニ各特別會計豫算ニ付キマシテモ、ソレハ前ニ申述ベマシタ一般會計豫算ノ編成方針ニ準據シ、專ラ戰力增强ノ爲、眞ニ緊急缺クベカラザル經費ヲ計上致スコトニ努メ、生産ノ増加、戰時陸運ノ強化竝ニ通信施設ノ整備等ニハ、特ニ重點ヲ置イタ次第デアリマス、又大東亜戰爭ニ要スル軍事費ハ、過日臨時軍事費ニ要スル追加案トシテ御協贊ヲ得タ通り二百七十億圓デアリマスルカラ、之ヲ昭和十八年度一般會計歲出豫算額ニ加ヘマスレバ、通計四百二億七千五百餘萬圓、此ノ内兩會計間ニ於テ重複致シマスル金額ヲ差引キマスレバ、三百六十億三千五百餘萬圓ト相成ルノデアリマス、尙又公債收入ハ、一般會計ニ於ケル金額ノ外、朝鮮、臺灣、帝國鐵道、通信事業、及政府出資各特別會計ニ於ケル分トシテ、十億五千餘萬圓ヲ計上致シテ居リマスルカラ、昭和十八年度豫算ノ歲出財源タル公債發行豫定額ハ、臨時軍事費關係ノ分ヲ假ニ併セテ計算致シマスレバ、二百十四億二千餘萬圓ニ相成ルノデアリマス、次ニ經濟金融ニ付申上ゲマス、大東亜戰爭勃發以來茲ニ一年有餘、此ノ間、我ガ國經濟界ハ、其ノ基礎微動ダモ、セズ愈、鞏固ヲ加ヘ、國策ノ嚮所ニ協力致

シマシテ、有ラユル困難ヲ克服シ、以テ物的戰力充實ノ爲、戰爭生産ノ増強ニ邁進致シテ居ルノデアリマス、斯クノ如ク銃後經濟界ガ其ノ本分ヲ盡シ得ル所以ノモノハ、實ニ御稜威ノ下、我ガ忠誠勇武ナル陸海軍將兵ノ奮謀勇戦ノ賜デアリマシテ、衷心ヨリ感謝ヲ捧ゲル次第デアリマスガ、又他ノ一面銃後經濟界ニ於キマシテ、經營ニ、資金ニ、勞務ニ、技術ニ、ソレム、職域奉公ニ精進スル國民ノ熱誠ニ對シ、深ク敬意ヲ表スルモノデアリマス、昨年中ニ於テ我金融界ハ、此ノ驟古ノ大戰爭下ニ在リテ、戰費ニ、生產資金ニ、未會有ノ巨額ナル戰時需要ノ要請ヲ充足シナガラ、而モ終始平穩ニ經過シタノデアリマシテ、政府資金ノ撒布ハ、戰費ノ激増ニ伴ヒ、著シク增加致シマシタニモ拘ラズ、資金ノ調整其ノ宜シキヲ得マシテ、其ノ吸收、蓄積ハ順調ニ行ハレ、又金利水準モ、政府ノ方針通り、極メテ平靜ニ維持セラレテ居リマスルノミナラズ益其ノ半準化ニ進ミツ、アル情況デアリマス、茲ニ昨年中ニ於ケル主要ナル金融上ノ指標ニ付テ申上げテ見マスルナラバ、日本銀行券ノ平均發行高ハ五十二億五千六百餘萬圓、又其ノ昨年末ニ於ケル最高發行高ハ、七十四億四千七百餘萬圓デアリマシテ、一昨年ノソレハノ計數ニ比較致シ、何レモ約十二億圓程度ノ增加ニモ拘ラズ、從前ノ增加率ニ比較シテ、寧ロ減少ノ傾向ヲ示シテ居ルマスルガ、昨年、殊ニ下半期ニ於ケル發行高ノ増加率ハ、國債ノ發行額及戰費支拂額ノ急激ナル增加ニモ拘ラズ、從前ノ增加率ニ比較シテ、有スルモノ、七十九億九千七百餘萬性質ヲ有スルモノ、

圓、郵便貯金ニ於テ三十億千百萬圓、其ノ他、各種ノ蓄積ニ於テ、百三億九百餘萬圓、合計二百一十三億千七百餘萬圓ノ増加ヲ示シテ居ルノデアリマス、新規産業資本ノ調達モ順調ニ行ハレマシテ、社債新規發行額ハ二十七億六千五百餘萬圓ニ上リ、又株式ニ付キマシテハ其ノ新規拂込金額三十億圓ヲ超エ、其ノ價格モ大東亞戰爭以來概不好調デアリマス、尙政府ニ於キマシテハ、有價證券、特ニ株式ニ付キマシテ其ノ價格ノ適正及安定ヲ圖リ、且其ノ流通ノ圓滑ヲ期スルコトガ、戰時下經濟秩序ヲ維持シ、生産增强ニ支障ナカラシムル爲、極メテ必要デアルト認メマシテ、今般現在ノ取引所ヲ根本的ニ改組シ、日本證券取引所ヲ設立スルコトト致シ、別途之ニ關スル法律案ヲ提出致シテアリマス、次ニ戰時財政金融ノ中核ヲ爲ス國債ニ付キマシテハ、昨年中ニ於ケル發行額ハ百三十三億二千百萬圓ニ上リ、一昨年ニ比較致シ實ニ四十五億三千九百萬圓ノ増加ニ當ルノデアリマスルガ、同年中ニ於ケル之ガ消化ノ實績ハ、百二十八億千八百餘萬圓ニ達シ、消化率九割六分二厘ヲ示シテ居ルノデアリマス、之ヲ支那事變以來一昨年末迄ノ平均消化率八割二分八厘、又一昨年ノ消化率八割三分九厘ニ比較致シマシテ、遙カニソレヲ超過致シテ居リマス、支那事變以來最良ノ好成績ヲ示シテ居ルノデアリマス、支那事變ニ比シ、其ノ規模方聲躍的ニ擴大致シマシタ大東亞戰爭下ニ於テ、我が國經濟金融ニ關スル主要ナル指標ガ、以上甫上ガマシタ如ク從前ニモ増シテ良好ガ、所期ノ目的ヲ達シツ、アルコトヲ示ス

モノデアリマス、誠ニ邦家ノ爲御同慶ニ堪界ハ、右申述ベマシタル如ク今日迄極メテ順調ニ推移シテ參ツタノデアリマスガ、戰局ノ進展ニ伴ヒ、各般ノ事態ハ益々重且大トナリ、殊ニ只今申述ベマシタル昭和十八年度ノ豫算ハ誠ニ空前ノ巨額ニ達シテ居ルノデアリマス、資金ヲ國家的ニ動員活用スル部面モ更ニ擴大致シテ居ルノデアリマスカラ、今後ノ經濟金融ノ運營ハ、一層重大ヲ加ヘテ參ルノデアリマス、而シテ緒戦ノ戰果ハ、我ガ戰爭經濟ノ基盤ヲ大東亞ノ全域ニ擴大シ、經濟的ニモ必勝不敗ノ態勢ガ其ノ基礎ヲ確立致シテ居ルノデアリマス、今後是ガ運營ノ要點ハ、此ノ地域内ニ於ケル有ラユル人的、物的資源ヲ總動員シ、最能率良ク之ヲ活用シテ、以テ戰力ヲ增强ラル我ガ國戰爭經濟ノ運營ニ付、數箇ノ點ニ關シテ申述ベタイト存ズルノデアリマス、先づ大東亞共榮圈ニ關スル經濟金融ニ付、我ガ國ヲ中心トシテ概觀致シマスルニ、滿洲國及ビ中華民國ハ、我ガ國トノ一體的協力ノ下ニ、重要國防資源ノ開發等般ノ經濟建設ニ邁進致シテ居リマス、又「タイ」國及佛領印度支那ト我國トノ物資交流モ、愈々堅實ニ發展シツ、アリマス、我ガ國ト致シマシテハ、是等各地域ノ經濟ノ發展ニ對ノ爲ニスル我ガ戰力ノ增强ニ多大ノ寄與貢獻ヲ致シテ居ルノデアリマスコトハ、誠ニ欣快ニ堪ヘザル所デアリマス、我ガ國ト致シ、十分ナル協力ヲ爲スモノデアリマシテ、資ヲ爲シ來タノデアリマス、又通貨ノ健全満洲國及中華民國ニ對シテハ、昨年中二十億圓、支那車變以來合計七十二億圓ノ投

ナル發達方經濟發展ノ基礎ヲ成スモノデア  
ルコトニ顧ミマシテ、「タイ」國ニ引續キ、  
中華民國ニ對シマシテモ、通貨金融安定ノ  
爲ノ借款ヲ供與致シタノデアリマス、特ニ  
中華民國ニ對シマシテヘ、同國ノ參戰ヲ機會  
ト致シマシテ、一層經濟協力ヲ密接ナラシ  
ムル方針デアリマシテ、後ニ申述ベマスル  
敵產處理ノ問題ニ付キマシテモ、此ノ觀點ヨ  
リ特殊ノ考慮ヲ爲スコト致シテ居リマス、  
南方占領地域ニ於キマシテモ、其ノ豐富ナ  
ル資源ノ開發利用ハ、軍官民ノ努力ト、現  
地住民ノ協力トニ依リ、漸次活潑トナリ、重  
要軍需物資ノ現地調辨ノ程度モ大イニ増加  
致シテ參ヅテ居ルノデアリマシテ、今ヤ是等  
ノ諸地域ハ、共同共通ノ目的デアル米英擊  
滅ノ爲必要ナル我ガ戰力ノ增强ニ協力致  
シツ、アル次第デアリマス、之ニ伴ヒ南方開發  
金庫ノ業務モ大イニ擴充致シ、又本邦諸銀  
行ノ機能モ此ノ地域ニ漸次進展致シテ參  
テ居リマス、此ノ經濟建設ノ進行ニ伴ヒマ  
シテ、政府ハ今般南方占領地域ニ於ケル經  
濟開發、竝ニ現地軍費支拂等ノ爲ノ所要資  
金ノ圓滑ナル供給ヲ圖リマス爲、南方開發  
金庫ヲシテ、新タニ發券業務ヲ行ハシムル  
コトト致サムトスルノデアリマス、之ニ依  
リ政府ハ、今後現地ニ於テ支出セラル、軍  
事費所要資金ノ一部ヲ、南方開發金庫ヨリ  
ノ借入ニ依リ調辨スルコトニ相成ルノデア  
リマスルガ、本施策ハ、我ガ經濟力ノ基盤ガ  
共榮圈内ニ著々トシテ擴大スルニ照應シテ、  
我ガ財政ニ對スル南方占領諸地域ノ協力モ  
漸次進展シ來ツタルコトヲ示スモノデアリ  
マシテ、共榮圈ヲ基盤トスル財政ハ漸次確  
立セムト致シテ居ルノデアリマス、右申述

ハ、敵産處理ノ問題デアリマス、皇軍ノ赫  
赫タル戰果ニ依リ、大陸及ビ南方ノ作戰地  
域ニ於キマシテ、莫大ナル數額ニ上ル敵產  
ガ我ガ國ノ有ニ歸シ、又ハ我ガ國ノ勢力下  
ニ置カル、コトトナツタノデアリマスガ、政  
府ニ於キマシテハ今般特殊財產資金特別會  
計ヲ設置シ、敵產ハ概ネ之ヲ特殊財產ト致  
シ本資金ニ歸屬セシメタル上、之ヲ運用ス  
ルコトト爲シ、仍テ以テ生産增强及ビ軍事  
上ノ用途ニ之ヲ役立タシメ、我ガ戰力ノ擴  
充ト、我ガ戰時財政力ノ補強トニ資セシム  
ルコトト致シタノデアリマス、第二ハ、共  
榮圈内交易ノ計畫的運營ニ關スル問題デア  
リマス、即チ今般新タニ交易營團ヲ設置シ、  
之ヲシテ交易ノ統制的運營ヲ爲サシムルト  
共ニ、爲替交易調整特別會計ヲ設置致シマ  
シテ、物資交易上生ズル一切ノ差損差益ハ、  
國家ノ收支トシテ此ノ特別會計ニ歸屬セシ  
ム、其ノ收支ヲ綜合經理スルコトトシ、以テ  
計畫交易ノ實現ヲ確保シ、併セテ共榮圈内  
ノ爲替及物價政策ノ遂行ニ資スルコト致シ  
タノデアリマス、第三ハ、共榮圈内ノ決済制度  
ニ關シ、日本圓ニ依ル綜合決済方式ヲ全域ニ  
及シ得タコトデアリマス、即チ滿洲國、中華民  
國及ビ「タイ」國ニ於キマシテハ、既ニ此ノ新  
シキ決済方式ノ圓滑ナル運行ヲ見テ居ルノデ  
アリマスガ、今般佛領印度支那ニ於キマシテ  
モ、新シキ日佛間ノ協定ニ依リ、從來ノ金又  
ニ至ヅタノデアリマス、次ニ曩ニ外務大臣ヨリ  
モ説明ノアリマシタ通り、我ガ國ト盟邦獨  
伊兩國トノ間ニ於テ、新タニ成立致シマシ

夕經濟協力ニ關スル協定ニ基キ、「ドイツ」トノ間ニ貿易、技術竝ニ金融協力ニ關スル取極ガ締結セラレタノデアリマス、盟邦トノ友好關係ハ近來愈々緊密ノ度ヲ加ヘツ、アルノデアリマスガ、今回ノ協定ニ依リ、東西ノ盟邦間ノ物資ノ交流竝ニ金融的關係ハ劃期的ノ進展ヲ爲スモノデアリマシテ、茲ニ一ト、他ハ歐洲盟邦ヲ中心トスル西方ノ大經濟圈トガ、愈々密接ニ聯繫セラル、コトドナリ、世界全般ノ公正ナル新秩序ノ招來ニ貢獻スル爲、東西兩經濟圈ノ緊密ナル協力ニ關スル基礎ガ確立セラレタノデアリマス、續イテ國內問題ニ付テ一言致シマス、國內ニ於ケル戰時經濟政策ノ要點ハ、戰時國民生活ヲ確保スルト共ニ、國家經濟ノ全般ノ秩序ヲ維持シツ、其ノ全力ヲ戰力ノ増強ノセシムルニアリマスコトハ、既ニ屢々所述ベマシタ通リデアリマスルガ、資金的ニ之ヲ見マスルナラバ、國家資金ノ增加ヲ門リマスルト共ニ、其ノ配分ヲ物的戰力ノ増強ノ要請ニ適合セシムルコトデアリマス、元來マシタ通リデアリマスルガ、資金的ニ之ヲ見マスルナラバ、國家資金ノ增加ヲ門リマスルト共ニ、其ノ配分ヲ物的戰力ノ増強ノ要請ニ適合セシムルコトデアリマス、而

國民消費ニ向ケラレマシテハ、生產ノシテ戦爭以前ノ經濟ニ於キマシテハ、生產ノ大部分ガ國民ノ消費物資ヲ對象ト致シタモノデアリマシテ、茲ニ原性「インフレー」ノ均衡ヲ失ヒマシテ、故ニ惡性「インフレー」ノ端ヲ發スルノデアリマス、資金ノ蓄積及配分ノ計畫ハ、此ノ見地ニ依ツテ、資金ヲ戰爭遂行ト戰爭生產增强ノ爲必要ナル好關係ハ近來愈々緊密ノ度ヲ加ヘツ、アルノデアリマスガ、今回ノ協定ニ依リ、東西ノ盟邦間ノ物資ノ交流竝ニ金融的關係ハ劃期的ノ進展ヲ爲スモノデアリマシテ、茲ニ一ト、他ハ歐洲盟邦ヲ中心トスル西方ノ大經濟圈トガ、愈々密接ニ聯繫セラル、コトドナリ、世界全般ノ公正ナル新秩序ノ招來ニ貢獻スル爲、東西兩經濟圈ノ緊密ナル協力ニ關スル基礎ガ確立セラレタノデアリマス、續イテ國內問題ニ付テ一言致シマス、國內ニ於ケル戰時經濟政策ノ要點ハ、戰時國民生活ヲ確保スルト共ニ、國家經濟ノ全般ノ秩序ヲ維持シツ、其ノ全力ヲ戰力ノ増強ノセシムルニアリマスコトハ、既ニ屢々所述ベマシタ通リデアリマスルガ、資金的ニ之ヲ見マスルナラバ、國家資金ノ增加ヲ門リマスルト共ニ、其ノ配分ヲ物的戰力ノ増強ノ要請ニ適合セシムルコトデアリマス、而

國民消費ニ向ケラレマシテハ、生產ノシテ戦爭以前ノ經濟ニ於キマシテハ、生產ノ大部分ガ國民ノ消費物資ヲ對象ト致シタモノデアリマシテ、茲ニ原性「インフレー」ノ均衡ヲ失ヒマシテ、故ニ惡性「インフレー」ノ端ヲ發スルノデアリマス、資金ノ蓄積及配分ノ計畫ハ、此ノ見地ニ依ツテ、資金ノ增加ヲ門リマスルト共ニ、其ノ配分ヲ物的戰力ノ増強ノ要請ニ適合セシムルコトデアリマス、而

國民消費ニ向ケラレマシテハ、生產ノシテ戦爭以前ノ經濟ニ於キマシテハ、生產ノ大部分ガ國民ノ消費物資ヲ對象ト致シタモノデアリマシテ、茲ニ原性「インフレー」ノ均衡ヲ失ヒマシテ、故ニ惡性「インフレー」ノ端ヲ發スル所ニ在ルト考フルノデアリマス、而

○議長（伯爵松平賴壽君）國務大臣ノ演說ニ對シ、質疑ノ通告ガゴザイマス、是ヨリ

○田中館愛橋君（登壇） 重大ナル時局ニ當リ、本議會ニ於キマシテ

各方面ニ瓦ル質疑ニ對シ政府ハ明快ナル御

答辯ヲ下サレマシテ、我ガ國策ノ大方針ガ

儀トシテ動カザルコトヲ中外ニ表明致シマ  
シタコトハ、御同慶ノ至リニ存ジマス、唯  
國民精神ノ宿リマス所ノ國語國字ニ對シテ  
ハ、未ダ之ヲ伺フ機會ヲ得マセカラ、之  
ニ付テ一二ノ質疑ヲ致シマシテ、政府ノ御  
意見ヲ伺ヒマス、昭和十六年一月、第七十  
六議會ニ於キマシテ、本員ノ質疑ニ對シ、  
政府ハ次ノ如ク言明セラレタノデアリマ  
ス、國語國字問題ノ整理統一ハ、國民精神ノ  
統一振作上、極メテ重要ナル問題ト考ヘテ  
居リマス、從ツテ現下ノ錯雜混亂セル國語  
研究調査研究致シマシテ、之ヲ整理統一  
スルコトハ焦眉ノ急務デアルト信ジテ居リ  
マス、併シ國語國字問題ノ解決ハ、學術的  
實際ニ即セシムル要ガアルノデアリマス、  
且國語ノ歴史的傳統並ニ將來ヘノ發展性ヲ  
併セ考慮致シマシテ、慎重ニ行フコトガ肝  
要アルト存ジマス、從ツテ文部省ニ於キ  
マシテハ、先般國語審議會ヲ擴充致シマス  
ルト共ニ、國語課ト云フモノヲ新設致シマ  
シテ、兩者協力ノ上調査研究ヲ促進致シマ  
シテ、成案ヲ得次第之ヲ實行ニ移スベク期  
シツ、アル次第デゴザイマス、斯ノ如キ政  
府ノ御考ト共ニ、一般國民モ近年國語國字  
問題ニ目覺メマシテ、新聞雜誌等之ヲ論ゼ  
ザルモノノチキ有様ナルコトハ御承知ノ通  
リデアリマス、或有力ナル衆議院ノ議員  
ハ、此ノ問題ノ解決ニ對シテハ、宜シク數  
千萬圓ノ預算ヲ立テ速カニ解決ノ途ヲ講ズ  
努力ニ依ツテ解決サレタト見ルベキモノ  
ハ、常用漢字ノ制定ダケト思ヒマス、假名

遣問題ノ如キハ今ニ制定ヲ見マセヌ、本員  
ノ考ヘマス所デハ、若シ常用假名遣ヲ制定  
セラレマシタナラバ、漢字ノ制限或ハ節約  
ノ如キハ自然ニ行ハレルコトト思ハレマ  
ス、平安朝時代ノ古イモノト現代ノモノト混  
用ニ委セテ居ル有様デアリマス、之ヲ解決  
スルノニハ、相當ノ豫算ヲ組マレテ、所謂  
焦眉ノ重大問題ノ解決ニ御掛リニナラウト  
期待致シマシタガ、如何ナル御都合カ、是  
ハ日常リ兼ネマス、勿論言語、文字ハ、單  
ニ簡單デアルトカ、便利デアルトカダケハ  
唯其ノ一面ニ過ギマセヌ、傳統、慣例等ヲ  
篤ト考ヘルベキハ、政府ノ仰シヤル通リデ  
アリマス、サリナガラ傳統慣例ハ、時ト共  
ニ變遷致シマスカラ、之ニ應ジテ言語文字  
ノ改良修正モ行ハナケレバナリマセヌ、何レ  
ノ國語ニ致シマシテモ、是等ノ修正ハ一時ニ  
實行スルコトハ困難デ、數回ノ段階ヲ經マ  
コトハ、歷史ノ示ス通りアリマス、我ガ國ニ  
於テモ、或時代ニハ濁音ヲ避ケテ假名ヲ使ッ  
タ時代モアリマスガ、言語ノ發達ハ、此ノ濁音ガ  
必要紹クベカラザルモノト相成リマシタ、例ヘ  
バ「テニヲハ」「テ」「デ」デハ全ク意味ノ反対  
ニナルコトガアリマス、右名ナ月ヲ眺メテ感  
想ヲ現シマシタ歌ニ、「我ガ心慰メ兼ネキ更  
科ヤ姥捨山ニ出ル月ヲ見テ」見ナイデ「下」見テ「下  
捨山ニ出ル月ヲ見テ」見ナイデ「下」見テ「下  
唯濁音符一ツダケデ意味ガ全ク反対ニナリ  
マス、今回ノ議會ニ出マシタ法律案ノ校正  
ト心得マシテ、故ラニ之ヲ避ケルモノガア  
リマスコトハ甚ダシキ誤リデアリマス、英  
語ノミ一黠張リニ學ビマシタ者ハ、「ローマ」  
字ト言ヘバ之ヲ英國ノ文字ト思ヒマスガ、  
トンデモナイ間違アリマス、「ローマ」字ハ  
我ガ同盟國「イタリヤ」ノ都「ローマ」カラ發  
生シタ文字ナルコトハ其ノ名前ノ示ス通り  
デ「イタリヤ」ハ之ヲ國ノ誇リシテ居リマ  
ス、之ノ使ヒ方ハ、英語ニ於テ最モ拙劣デ  
アリマス、英國人自身ガ既ニ之ニ呆レマシ  
ス」ヲ「ベカラズ」ト直ス、「アラザル」ヲ「ア

ラサル」ニ直ストカ、「アラサル」ヲ「アラ  
ザル」ニ直スト云フヤウナコトガ書イテア  
リマス、或所デハ「掲グ」ヲ「掲ク」ト云  
ス、平安朝時代ノ古イモノト現代ノモノト混  
用ニ委セテ居ル有様デアリマス、之ヲ解決  
スルノニハ、相當ノ豫算ヲ組マレテ、所謂  
焦眉ノ重大問題ノ解決ニ御掛リニナラウト  
期待致シマシタガ、如何ナル御都合カ、是  
ハ日常リ兼ネマス、勿論言語、文字ハ、單  
ニ簡單デアルトカ、便利デアルトカダケハ  
唯其ノ一面ニ過ギマセヌ、傳統、慣例等ヲ  
篤ト考ヘルベキハ、政府ノ仰シヤル通リデ  
アリマス、サリナガラ傳統慣例ハ、時ト共  
ニ變遷致シマスカラ、之ニ應ジテ言語文字  
ノ改良修正モ行ハナケレバナリマセヌ、何レ  
ノ國語ニ致シマシテモ、是等ノ修正ハ一時ニ  
實行スルコトハ困難デ、數回ノ段階ヲ經マ  
コトハ、歷史ノ示ス通りアリマス、我ガ國ニ  
於テモ、或時代ニハ濁音ヲ避ケテ假名ヲ使ッ  
タ時代モアリマスガ、言語ノ發達ハ、此ノ濁音ガ  
必要紹クベカラザルモノト相成リマシタ、例ヘ  
バ「テニヲハ」「テ」「デ」デハ全ク意味ノ反対  
ニナルコトガアリマス、右名ナ月ヲ眺メテ感  
想ヲ現シマシタ歌ニ、「我ガ心慰メ兼ネキ更  
科ヤ姥捨山ニ出ル月ヲ見テ」見ナイデ「下」見テ「下  
捨山ニ出ル月ヲ見テ」見ナイデ「下」見テ「下  
唯濁音符一ツダケデ意味ガ全ク反対ニナリ  
マス、今回ノ議會ニ出マシタ法律案ノ校正  
ト心得マシテ、故ラニ之ヲ避ケルモノガア  
リマスコトハ甚ダシキ誤リデアリマス、英  
語ノミ一黠張リニ學ビマシタ者ハ、「ローマ」  
字ト言ヘバ之ヲ英國ノ文字ト思ヒマスガ、  
トンデモナイ間違アリマス、「ローマ」字ハ  
我ガ同盟國「イタリヤ」ノ都「ローマ」カラ發  
生シタ文字ナルコトハ其ノ名前ノ示ス通り  
デ「イタリヤ」ハ之ヲ國ノ誇リシテ居リマ  
ス、之ノ使ヒ方ハ、英語ニ於テ最モ拙劣デ  
アリマス、英國人自身ガ既ニ之ニ呆レマシ  
ス」ヲ「ベカラズ」ト直ス、「アラザル」ヲ「ア

ラサル」ニ直ストカ、「アラサル」ヲ「アラ  
ザル」ニ直スト云フヤウナコトガ書イテア  
リマス、或所デハ「掲グ」ヲ「掲ク」ト云  
ス、平安朝時代ノ古イモノト現代ノモノト混  
用ニ委セテ居ル有様デアリマス、之ヲ解決  
スルノニハ、相當ノ豫算ヲ組マレテ、所謂  
焦眉ノ重大問題ノ解決ニ御掛リニナラウト  
期待致シマシタガ、如何ナル御都合カ、是  
ハ日常リ兼ネマス、勿論言語、文字ハ、單  
ニ簡單デアルトカ、便利デアルトカダケハ  
唯其ノ一面ニ過ギマセヌ、傳統、慣例等ヲ  
篤ト考ヘルベキハ、政府ノ仰シヤル通リデ  
アリマス、サリナガラ傳統慣例ハ、時ト共  
ニ變遷致シマスカラ、之ニ應ジテ言語文字  
ノ改良修正モ行ハナケレバナリマセヌ、何レ  
ノ國語ニ致シマシテモ、是等ノ修正ハ一時ニ  
實行スルコトハ困難デ、數回ノ段階ヲ經マ  
コトハ、歷史ノ示ス通りアリマス、我ガ國ニ  
於テモ、或時代ニハ濁音ヲ避ケテ假名ヲ使ッ  
タ時代モアリマスガ、言語ノ發達ハ、此ノ濁音ガ  
必要紹クベカラザルモノト相成リマシタ、例ヘ  
バ「テニヲハ」「テ」「デ」デハ全ク意味ノ反対  
ニナルコトガアリマス、右名ナ月ヲ眺メテ感  
想ヲ現シマシタ歌ニ、「我ガ心慰メ兼ネキ更  
科ヤ姥捨山ニ出ル月ヲ見テ」見ナイデ「下」見テ「下  
捨山ニ出ル月ヲ見テ」見ナイデ「下」見テ「下  
唯濁音符一ツダケデ意味ガ全ク反対ニナリ  
マス、今回ノ議會ニ出マシタ法律案ノ校正  
ト心得マシテ、故ラニ之ヲ避ケルモノガア  
リマスコトハ甚ダシキ誤リデアリマス、英  
語ノミ一黠張リニ學ビマシタ者ハ、「ローマ」  
字ト言ヘバ之ヲ英國ノ文字ト思ヒマスガ、  
トンデモナイ間違アリマス、「ローマ」字ハ  
我ガ同盟國「イタリヤ」ノ都「ローマ」カラ發  
生シタ文字ナルコトハ其ノ名前ノ示ス通り  
デ「イタリヤ」ハ之ヲ國ノ誇リシテ居リマ  
ス、之ノ使ヒ方ハ、英語ニ於テ最モ拙劣デ  
アリマス、英國人自身ガ既ニ之ニ呆レマシ  
ス」ヲ「ベカラズ」ト直ス、「アラザル」ヲ「ア

ラサル」ニ直ストカ、「アラサル」ヲ「アラ  
ザル」ニ直スト云フヤウナコトガ書イテア  
リマス、或所デハ「掲グ」ヲ「掲ク」ト云  
ス、平安朝時代ノ古イモノト現代ノモノト混  
用ニ委セテ居ル有様デアリマス、之ヲ解決  
スルノニハ、相當ノ豫算ヲ組マレテ、所謂  
焦眉ノ重大問題ノ解決ニ御掛リニナラウト  
期待致シマシタガ、如何ナル御都合カ、是  
ハ日常リ兼ネマス、勿論言語、文字ハ、單  
ニ簡單デアルトカ、便利デアルトカダケハ  
唯其ノ一面ニ過ギマセヌ、傳統、慣例等ヲ  
篤ト考ヘルベキハ、政府ノ仰シヤル通リデ  
アリマス、サリナガラ傳統慣例ハ、時ト共  
ニ變遷致シマスカラ、之ニ應ジテ言語文字  
ノ改良修正モ行ハナケレバナリマセヌ、何レ  
ノ國語ニ致シマシテモ、是等ノ修正ハ一時ニ  
實行スルコトハ困難デ、數回ノ段階ヲ經マ  
コトハ、歷史ノ示ス通りアリマス、我ガ國ニ  
於テモ、或時代ニハ濁音ヲ避ケテ假名ヲ使ッ  
タ時代モアリマスガ、言語ノ發達ハ、此ノ濁音ガ  
必要紹クベカラザルモノト相成リマシタ、例ヘ  
バ「テニヲハ」「テ」「デ」デハ全ク意味ノ反対  
ニナルコトガアリマス、右名ナ月ヲ眺メテ感  
想ヲ現シマシタ歌ニ、「我ガ心慰メ兼ネキ更  
科ヤ姥捨山ニ出ル月ヲ見テ」見ナイデ「下」見テ「下  
捨山ニ出ル月ヲ見テ」見ナイデ「下」見テ「下  
唯濁音符一ツダケデ意味ガ全ク反対ニナリ  
マス、今回ノ議會ニ出マシタ法律案ノ校正  
ト心得マシテ、故ラニ之ヲ避ケルモノガア  
リマスコトハ甚ダシキ誤リデアリマス、英  
語ノミ一黠張リニ學ビマシタ者ハ、「ローマ」  
字ト言ヘバ之ヲ英國ノ文字ト思ヒマスガ、  
トンデモナイ間違アリマス、「ローマ」字ハ  
我ガ同盟國「イタリヤ」ノ都「ローマ」カラ發  
生シタ文字ナルコトハ其ノ名前ノ示ス通り  
デ「イタリヤ」ハ之ヲ國ノ誇リシテ居リマ  
ス、之ノ使ヒ方ハ、英語ニ於テ最モ拙劣デ  
アリマス、英國人自身ガ既ニ之ニ呆レマシ  
ス」ヲ「ベカラズ」ト直ス、「アラザル」ヲ「ア

ラ「ヘボン」式ヲ一掃サレマシタコトヘ、誠ニ機宜ニ適シタル御處置デアルト存ジマス、之ヲ一步進メテ、只今申シマシタヤウニ、一通り國定ノ訓令式ヲ教ヘテカラ外國語ヲ教ヘルヤウ御取計ラヒ出來マスマイカ、少クモ今南方占領地ヘ送ル多數ノ國語教員ニ此ノ事ヲ能ク御含メ下サルコトヲ希望致シマス、此ノ點ニ付キマシテモ御當局ノ御考ヲ伺ヒタウゴザイマス、國運ノ世界發展ニ從ヒマシテ、外國電報モ年々増加致シマス、今更ス爲ニ、諸文法ノ内容ヲ明カニスルニ便利デアリマスト共ニ、又機械的ニ於キマシテモ、ガ、「ローマ」字ハ母音、子音ヲ分ケテアリマス爲ニ、諸文法ノ内容ヲ明カニスルニ便利デアリマスト共ニ、又機械的ニ於キマシテモ、信省ニ於テ自動高速送信機、即チロデ喋ルノノ數倍ノ早サヲ以テ電信ヲ送ラレル機械デアリマス、之ヲ用フルニ當リマシテ、百數名ノ署名ヲ以テ遞信大臣ニ建議致シマシタ、此ノ高速度通信機ヲ御用ヒニナルニハ「ローマ」二字ヲ御用ヒニナル方ガ遙カニ簡単ニ参リマス、其ノ當時ハ孔ヲ三ツ開ケル所ヲ、假名ハドウシテモ四ツ開ケナケレバ出來ナイト云フコトデアリマシタ、今日ハ五ツト六ツト云フヤウニナッテ居リマシテ、別々ニ「ローマ」字ノ機械ト假名ノ機械ト重複サシテ居リマスガ、私共ハ其ノ當時ノ建議デ配達ハ假名ニ翻譯シテ配達サレテモ宜カラウ、明治ノ初年ニハ、假名ノ電報ヲ漢字混リニ翻譯シテ配達シタコトガアリマス、是等ニ鑑ミテモ不可能デハナカラウト思ヒマス、チヨット素人考ニハ、電報デモ或ハ書キ

物デモ、「ローマ」字ハ假名一ツノ所ヲニツ書クカラ長クナラウトハ普通ニ思フノデアリマス、併シ實際ニ行キマスト云フト、電報ニ於キマシテ二十六ノ記號——點ト棒ノ記號——ヲ作りマシテ、其ノ先ノ五十音ノ殘リト濁音、半濁音、撥音等ノ記號ニナリマスト云フト、是ハ段々長イ記號ニナラナケレバナリマセヌ、ソコデ先年海軍デ、二百百通餘リノ普通電報ヲ假名デ書キ、「ローマ」字デ書キシテ、比較致シマスルト云フト、細カイ數字ハ抜キマスガ、結局長サハ「ローマ」字ノ方ハ三・三「ベルセント」短クナル、假名ノ方ガ三「ベルセント」以上長クナリマス、今日ハ殊ニ南方諸方モ開ケ、又民間ニ於キマシテモ、軍部ニ於キマシテモ、通信ハ非常ニ重大ナル問題デアリマシテ、是等ニ從事スル多數ノ者ノ教育ニ付キマシテモ、少ナカラザル費用ト勞力ガ要ルノデアリマス、若シモ電報ニ用フル記號ヲ一元化シマシテ、電信記號ハ「ローマ」字トナスト云フコトニナリマスレバ、教育ニ要スル時間ニ於テ三分ノ一一ナル譯デアリマス、是モ御當局ノ御考ニナツテ宜シイ問題デアラウカト思ヒマス、立チ歸リマシテ、國字整理ハ教育年限短縮ト離ルベカラザル問題デアルト思ヒマス、政府ガ仰セノ如ク錯雜混亂セル現在ノ國字ニ斷然タル徹底的整理ヲ施スコトハ、急ニハ勿論ムツカシイノデ字ヲ用フルト云フヤウナコトニナリマスレバ、自然的ニ教育年限ハ二箇年ヲ短縮スルコトガ出來ルカト思ヒマス、ト云フノハ、盲人ニ小學讀本ヲ教ヘマスノニ、六年間ノ

讀本ヲ四年間デ盲人ガ覺エテシマノノデアリマス、是ハ文字ト云フコトガ無イカラデアリマスガ、勿論是グケデハ濟ミマセヌカラニ盲人以上ノコトモアリマスケレドモ、兎ニ角盲人ハ四年デ六年間ノ修業ヲ終ルト云フコトニナツテ居リマス、盲人ノ使フ點字ト云フノハ、所謂音素組織デ、子音、母音ノ組立ニ依ツテ出来テ居リマス、青年ノ間ノ二年ノ效力ヘ、老年ノ者ノ二年トハ、數倍ノ値ガ達ヒマス、毎庶例ニ出シマスガ、歐米ノ有名ナル太家ハ二十歳未滿ニシテ頭角ヲ現シ、一般世界ニ知レ渡ル論文ヲ出シテ居リマス、「ラヂオム」ノ發見者ノ一人「ギューリー」氏ガ理科大學ヲ卒業シタノハ十七歳、日本ノ年デ十八歳デアリマス、只今中學ヤ高等學校ノ年限ヲ如何ニ縮メマシテモ、十八歳デ理科大學ヲ卒業スルヤウナコトニハ、マダ程遠イノデアリマス、是ハ何故ニ斯ウ云フ結果ガ得ラレルカト申シマスレバ、通用文字ノ簡單ナ爲ニ、讀書力ガ速カニ付キマシテ、之ニ依ツテ獨學デ學力ヲ養フコトガ出來ルカラデアリマス、此ノ時局ニ當リマシテ少壯激刺タル青年諸士ガ、其ノ若々シキ創造力ノ盛ナル所デ、各種ノ機械ナリ武器ナリニ考案ヲ施シマシタナラバ、如何ニ大ナル事ガ出来ルカ、蓋シ想像以上ノモノガアラウト思ヒマス、一體大戰爭ノ決シマスルニハ、士氣ノ盛ナルコトハ勿論デアリマスガ、其ノ外ニ、ソレ迄知レナカッタ新シイ武器ガ現レテ來ルコトデアリマス、是ハ殊ニ近年ニ至ツテ著シクナリマシタ、之ニ依ツテ寡兵ヲ以テ大敵ヲ破ルコトガ出來ルノデアリマス、日清戰爭ニシマシテモ、木艦ノ松島、橋立等ガ敵ノ定遠、鎮遠ノ鐵艦ニ向ツテ戰ヒマシタガ、我ガ大砲ト

速射砲ガ彼ニ優タコトガ大勝ヲ得マシタ  
一ツノ原因デアルト聞キマス、又日露ノ戰役ニ於キマシテモ、我ガ照準器ハ敵ニ優ル確實ナモノデアッタ云フコトデアリマシテ、是ハ當時ノ從軍セラレマシタ財部大將ヨリ伺ッタノデアリマス、現在英國人ガ腦ヲ絞ツテ絕對ニ沈マヌト云フ設計ヲシマシタ「プリンス・オブ・ウェールズ」ガ見事ニ一撃ノ下ニ沈メラレマシタコトハ、固ヨリ我ガ軍人ノ精魂ニ因ルノデアリマスガ、又兵器ニ於キマシテモ彼ニ優タモノニアッタコトハ疑ハレマセヌ、今我ガ技術院ノ出來マシタノモ蓋シ此ノ爲デアリマス、彼ノ軍艦ノ五・五・三ノ比率ヲ決定サレマシク時ニ、或英人ハ「比率ハソレデ宜シイガ、併シ日本ニハ平賀ト云フ造船家ガ居ルト云フコトヲ計算ニ入レナケレバナラナイ」斯ウ申シマシタ、平賀博士ハ、只今ハ現役ヲ退カレテ東大綱長ノ要職ニ居ラレマスガ、英國造船學會ヨリ金牌ヲ贈ラレタ方デアリマス、而シテ同君ノ養成セラレタ諸君ガ、只今職域奉公デ我ガ時局突破ノ爲ニ奮闘セラレテ居リマスコトハ、衷心ヨリ感謝致シテ居ル所デアリマス、昭和七年ニ「ゼネバ」ニ於テ議員聯盟ノ總会ガ開カレマシタ時ニ、私モ當貴族院代表ノ一人トンテ出マシタ、其ノ時ニ、兵力ヲ國內ノ治安ヲ維持スルダケニ止メテ、其ノ他ノ軍備ヲ縮小シテシマハウト云フ議題ガ出マシテ、之ヲ論ジマシタ、詰リ之ニ依テ戰争ヲ不可能ニシヨウト云フコトデアリマシタ、其ノ時ニ私ガ申シマシタコトハ「軍艦ノトシニ數ヤ軍備豫算ノ多イ少イナドヘ論ズルニ足ラヌ、自然界ノ力ヲ利用スルコトハドウデアル、將來如何ナル發見、發明ガ出ルカ、何人モ分ラヌガ、其ノウチニハ、今ノ



デゴザイマシテ、只今博士カラモホ語話ノア  
リマシタ通り、唯便不便、或ハ國語ガムツ  
カシイトカムツカシクナイトカト云フヤウ  
ナ觀點カラダケ、之ヲ取扱フベキモノデナ  
トデゴザイマス、唯一面ニ於キマシテ、國  
語ガ非常ニムツカシイガ故ニ、又國字ガム  
ツカシイガ故ニ、我ガ國ノ學術ノ進展ガ非  
常ニ阻害サレテ居ルト云フコトヲ頻リト主  
張サレマスルガ、是ハ一面此ノ點ガナイト  
云フ譯デハアリマセヌ、全部否定スルト云  
フ譯デハゴザイマセヌガ、今日ニ於ケル我  
ガ國ノ學術ノ進展ガ、學術的ニ考ベマスル  
先進國ニマダ及バナイ點ガアリマスト云フ  
コトヲ、唯國語國字ノムツカシイト云フコ  
トダケニ歸著セシムル譯ニハ參ラナイト思  
フノデアリマシテ、他ニ色々ナ事情ニ依ツテ  
今日ニナツテ居ルノデアリマス、ガ併シナガ  
ラ若シ國語國字ヲ簡易ナラシメテ、而モ國  
語トシテノ又國字トシテノ傳統、又其ノ生  
命ヲ失フコトナシニ整理ガ出來マスルヤウ  
ナコトニ相成リマスレバ、是ハ誠ニ國家ノ  
爲ニ慶賀ニ堪ヘナイ所デゴザイマシテ、教  
育ガ一層進展スルコトニナリ、又學術ノ振  
興モ自ラ圖レルコトニ相成ラウカト存ジマ  
スガ、併シ是モ度々申シマシタ通り我ガ國  
語ノ傳統ト國語ノ持ツ生命、又我ガ國民性  
ガ如何ニ國語國字ト密接ナル關係ガアルカ  
ト云フヤウナコトニ考ヘ及ビマスル時、決  
シテ簡単ニ片附ク問題デハナイト考ヘルノ  
デゴザイマス、其ノヤウナ意味ニ於キマシ  
テ、慎重ニ之ヲ取扱ヒ、又學術的ニ誤ラザ  
ル調査研究ヲ致シマシテ、焦眉ノ急ニ追ツテ  
居ルトハ考ヘラレマスケレドモ、併シ今日  
明日ニ解決ノ付カナイ問題デアルト云フ事

柄ニ付キマシテハ、是ハ博士モ既ニ重々御承知ノコトト思ヒマスガ、其ノ點ニ向ヒマシテ出來ルダケ速カニ適當ナル解決ヲ見タイト云フコトハ、念願トシテ居ルノデゴザイマスルカラ、十分ニ御趣旨ノアル所ヲ尊重致シマシテ、此ノ問題ニ向ッテ努力致シタイト考ヘテ居ル次第アリマス  
○田中館愛橘君　只今文部大臣ノ御答辯ヲ得マシタガ、多分是以上ノコトハ伺フコトハ出來マイト思ヒマス、ドウカ出來ルダケノ御盡力ハ勿論デアリマスガ、成ルベク速力ニ此ノ問題ノ解決ニ至リマスヤウ、御盡力ノ程ヲ更ニ御願ヒ致シテ、私ノ質問ヲ終リマス  
○議長(伯爵松平頼壽君)　是ニテ國務大臣ノ演説ニ對スル質疑ヲ終リマシタ

キマシタ、第二分科會へ二回デゴザイマシタ、  
テ、二月モ二日ト二月ノ九日ニ開キマシタ、  
第三分科會へ三回デアリマシタ、二月ノ  
一日ト二月ノ八日及ビ二月十日ト、三回致  
シタ譯デゴザイマス、第四分科會へ一回デ  
ゴザイマシテ、二月九日デゴザイマス、請  
願文書表報告ハ三回デゴザイマシテ、第一  
回報告ハ一月ノ二十八日、第二回報告ハ二  
月三日、第三回ノ報告ハ二月ノ十日デゴザ  
イマス、請願委員會特別報告ハ一回デゴザ  
イマシテ、其ノ第一號ヲ二月ノ十二日ニ  
出致シマシタ、請願ノ受理件數ガ七十二件  
デゴザイマス、此ノ請願連署ノ人數ハ八千  
六名デゴザイマス、右ノ請願七十二件中、  
請願文書表ニ掲載致シテアルモノガ五十三  
件、未掲載ノモノガ十九件デゴザイマス、  
委員會ハ慎重審査ノ結果、議院ノ會議ニ付  
スヘシトスルモノ九件、議院ノ會議ニ付スル  
ルヲ要セストスルモノ一件、即チ文書表第  
十九號デゴザイマス、以上ハ昭和十八年二  
月十三日迄ノ御報告デゴザイマス  
○議長(伯爵松平賴壽君) 是ニテ休憩ヲ致  
シマス、午後ハ一時三十分ヨリ開會致シマ  
ス、午前十一時五十八分休憩

日程第十一、遊興飲食稅法中改正法律案、日程第十二、特別行爲稅法案、日程第十三、輸出スル物品ニ對スル內國稅免除又ハ交付金交付ノ停止等ニ關スル法律案、政府提出、輸出スル物品ニ對スル内國稅免除又ハ交付金交付ノ付、第一讀會、是等ノ十二案ヲ一括シテ議題題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ  
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマス、賀屋大藏大臣  
〔左ノ案ハ朝讀ヲ經サルモ參照ノ  
タメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕  
臨時利得稅法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和十八年二月十二日



税、營業稅及臨時利得稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ前項ノ申請アリタルトキハ政府ハ輕減處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第一條ノ二十八 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十八年一月一日以後ニ於テ其ノ事業ニ屬スル設備又ハ權利其ノ他ヲ事業ノ統制ノ必要上命令ヲ以テ定ムル者ニ讓渡シタル法人ニシテ行政官廳ノ指導又ハ斡旋ニ依リ解散ヲ爲サザルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡ノ日以後ニ於テ納付スペキ所得稅、法人稅、營業稅及臨時利得稅ヲ輕減スルコトヲ得

第一條ノ二 同一人ニ付第一條ノ二十、第一條ノ二十六及第八條ノ規定中ニ以テノ規定ニ該當スル事由アルトキハ當該各規定中輕減又ハ免除額ノ最モ多額ト爲ルベキノ規定ヲ適用ス

第二十二條ノ三中「昭和十八年」ヲ「昭和十九年」ニ改ム

第二十二條ノ四 重要鑛物增產法第一條ノ二第一項ノ規定ニ依ル指定地域ニ於ケル指定鑛物ヲ目的トスル鑛區又ハ砂礫區ニシテ事業ノ着手又ハ繼續ノ許可ヲ申請シ不許可ト爲リタルモノニ對スル鑛區稅ノ稅率ハ鑛區稅法第二條第一項ノ規定ニ拘ラズ同項ニ規定スル稅率ノ三分ノ一トス但シ當該鑛區又ハ砂礫區ニ付使用權ノ設定アル場合ニ於テ使用鑛區ニ該當スル部分ニ付テハ此ノ限

ニ在ラズ重要鑛物增產法第三條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ付亦同ジ鑛區稅法第三條第三項ノ規定ハ事業ノ着手若ハ繼續不許可ト爲リタル年又ハ其ノ許可、重要鑛物增產法第三條ノ規定ニ依ル命令、使用權ノ設定若ハ消滅アリタル年ノ鑛區稅ノ計算ニ關シ、鑛區稅法第三條第二項ノ規定ハ事業ノ着手又ハ繼續不許可ノモノニ付其ノ許可、重要鑛物增產法第三條ノ規定ニ依ル命令又ハ使用權ノ設定アリタルニ因リ不足セル鑛區稅ノ徵收ニ關シ之ヲ準用ス

第二十三條但書ヲ削ル

附 則

本法ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條ノ四及附則第六項ノ規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム第一條ノ四ノ改正規定ハ法人ノ昭和十八年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

第一條ノ六ノ改正規定ハ法人ノ昭和十八年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ法人稅ヨリ、個人ノ昭和十九年分分類所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第一條ノ二十三、第一條ノ二十六、第一條ノ二十七及第十三條ノ二ノ改正規定ハ個人ノ昭和十八年分所得稅、營業稅及臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

第一條ノ二十五ノ改正規定ハ個人ノ昭和十九年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

登錄稅法中左ノ通改正ス

第十四條第三號ノ次ニ左ノ四號ヲ加フ

三ノ二 試掘權ヲ目的トスル使用權ノ設定

金十圓

三ノ三 試掘權ヲ目的トスル使用權ノ變更

減區 增區又ハ減區 每一件

金五圓

三ノ四 試掘權ヲ目的トスル使用權ノ移轉

相續 每一件

金一圓

三ノ五 試掘權ヲ目的トスル使用權ノ存續期間ノ更新

每一件

金五圓

六ノ二 採掘權ヲ目的トスル使用權ノ設定

每一件

金二十圓

六ノ三 採掘權ヲ目的トスル使用權ノ變更

減區 增區又ハ減區 每一件

金二十圓

六ノ四 採掘權ヲ目的トスル使用權ノ移轉

每一件

金二十圓

六ノ五 採掘權ヲ目的トスル使用權ノ存續期間ノ更新

每一件

金二十圓

同條第十一號中「鑛業權」ノ下ニ「使用權」ヲ加ヘ同條第十三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十三ノ一 存續期間滿了前ノ使用權ノ消滅

每一件

金五十錢

第十五條第三號ノ次ニ左ノ四號ヲ加フ

三ノ二 使用權ノ設定

採取區域河床ハ毎二里迄

其ノ他ハ毎十萬坪迄

金一圓五十錢

三ノ三 使用權ノ變更

減區

採取區域河床ハ毎二里迄

其ノ他ハ毎十萬坪迄

金一圓五十錢

每一件

金二十錢

但シ増區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三ノ四 使用權ノ移轉

相續

相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五十錢

每一件 金五十錢

三 濁酒 第一級 一石ニ付 百六十圓

四 白酒 庫出稅 一石ニ付 四十五圓

五 味淋 庫出稅 一石ニ付 四十五圓

六 燒酎 庫出稅 一石ニ付 一百五十五圓

アルコール分二十度ヲ超ユルトキハアルコ  
ル分二十度ヲ超ユル一度每ニ十五圓ヲ加フ  
アルコール分二十八度ヲ超ユルトキハアルコ  
ル分二十八度ヲ超ユル一度每ニ十圓ヲ加フ  
アルコール分二十八度ヲ超ユルトキハアルコ  
ル分二十八度ヲ超ユル一度每ニ十圓ヲ加フ

同條第八號中「砂鑪權」ノ下ニ「使用權」ヲ加ヘ同條第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

九ノ二 存續期間滿了前ノ使用權ノ消滅 每一件 金二十錢

金圓五十錢

七 酒類製造ノ原料タルアルコールヲ水ニ

八 酒類製造ノ原料タルモノ亦同ジ」ヲ加フ

九 第一級 一石ニ付 三百八十五圓

アルコール分四十度ヲ超ユルトキハアルコ  
ル分三十度ヲ超ユル一度每ニ七圓ヲ加フ  
アルコール分三十度ヲ超ユルトキハアルコ  
ル分三十度ヲ超ユル一度每ニ七圓ヲ加フ

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十二日

衆議院議長 岡田 忠彦

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

酒稅法中改正法律案

酒稅法中左ノ通改正ス

第九條第二項中「燒酎ト看做ス」ノ下ニ  
「命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受

第一種 第一級 一石ニ付 二百五十五圓

甲 連續式蒸餾機ニ依リ製造シタルモノ

乙 其ノ他ノモノ 一石ニ付 四十八圓

アルコール分四十度ヲ超ユルトキハアルコ  
ル分三十度ヲ超ユル一度每ニ七圓ヲ加フ  
アルコール分三十度ヲ超ユルトキハアルコ  
ル分三十度ヲ超ユル一度每ニ七圓ヲ加フ

一 清酒 造石稅 一石ニ付 四十五圓

アルコール分二十度ヲ超ユルトキハアルコ  
ル分二十度ヲ超ユル一度每ニ十一圓ヲ加フ

庫出稅 第二級 一石ニ付 一百九十五圓

庫出稅 第二級 一石ニ付 一百九十五圓

アルコール分二十度ヲ超ユルトキハアルコ  
ル分二十度ヲ超ユル一度每ニ二十圓ヲ加ヘタル金額

庫出稅 第一級

第二級

第三級

第四級

一 合成清酒 造石稅 一石ニ付 一百五十五圓

アルコール分二十度ヲ超ユルトキハアルコ  
ル分二十度ヲ超ユル一度每ニ十一圓ヲ加フ

庫出稅 第二級 一石ニ付 一百五十五圓

庫出稅 第二級 一石ニ付 一百五十五圓

アルコール分二十度ヲ超ユルトキハアルコ  
ル分二十度ヲ超ユル一度每ニ二十圓ヲ加ヘタル金額

庫出稅 第一級 一石ニ付 一百圓

一石ニ付

二百圓





第五條ノ三 酒造組合ハ組合員ノ當該事

業ニ關スル統制規程ヲ設定スヘシ

統制規程ノ設定及變更ハ政府ノ認可ヲ

受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第五條ノ四 酒造組合ノ組合員ハ當該酒

造組合ノ統制規程ニ從フヘシ

第五條ノ五 酒造組合ハ政府ノ認可ヲ受

ケ合併又ハ分割ヲ爲スコトヲ得

合併後存續スル組合又ハ合併若ハ分割

ニ因リテ設置シタル組合ハ合併又ハ分

割ニ因リテ消滅シタル組合ノ権利義務

ヲ承繼ス

第五條ノ六 政府ハ必要アリト認ムルト

キハ酒類製造者ヲシテ酒造組合ヲ指定

シ當該組合ノ組合員タラシムルコトヲ

得

第五條ノ七 政府ハ必要アリト認ムルト

キハ酒造組合ニ對シ酒類

得

第五條ノ八 酒造組合ハ左ノ事由ニ因リ

テ解散ス

一 政府ノ命令

二 組合又ハ分割  
前項第二號ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受ク

ルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六條ノ三中「組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ」ヲ

「共同ノ」ニ改メ同條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ命令ヲ以テ定ムル酒造組合ニ付テ

ハ此ノ限ニ有ラス

第六條ノ四 酒造組合聯合會及命令ヲ以

ル爲酒造組合中央會ヲ設置スルコトヲ

第六條ノ五 酒販組合聯合會ハ共同ノ目

的トス

第十條ノ五 酒販組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

第十條ノ六 全國酒販組合聯合會及命令ヲ以

ル酒類販賣業者ハ共同ノ目的ヲ達スル爲道府縣ヲ一區域トスル酒販組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

第十條ノ七 中第三條ノ二ノ下ニ「第四

條ノ一、第四條ノ二」ヲ加ヘ「及第五條ノ四」ヲ「第五條ノ四、第五條ノ七及第五條ノ八」ニ改ム

第六條ノ八中「第三條ノ二第一項第三號」ヲ「第三條ノ二、第四條ノ一、第四條ノ三」ニ、「及第五條ノ四」ヲ「第五條ノ四、

第五條ノ七及第五條ノ八」ニ改ム

第六條ノ九 酒造組合中央會ハ統制規程ノ定ムル所ニ依リ命令ヲ以テ定ムル酒

造組合及酒造組合ノ組合員ヲシテ其ノ行フ統制ニ從ハシムルコトヲ得

第九條ノ三 政府ハ酒造組合、酒造組合聯合會又ハ酒造組合中央會ニ對シ酒類

製造業ノ統制運營上必要ナル事業ノ施

行ヲ命シ、定款若ハ統制規程ノ變更其

ノ他必要ナル事項ヲ命シ又ハ定款若ハ統制規程ノ設定若ハ變更ヲ爲スコトヲ

得

第十條中「若ハ定款ノ規定ニ違背シ」ヲ

「定款若ハ統制規程ニ違反シ」ニ改ム

第十條ノ二 酒類販賣業者（命令ヲ以テ

定ムル酒類販賣業者ヲ除ク）ハ命令ノ

至第十條ノ規定ハ酒販組合ニ之ヲ準用

ス

第十條ノ九 第三條ノ二、第四條第一項、

第四條ノ二乃至第五條、第五條ノ二第

一項、同條第四項、第五條ノ三、第五

條ノ四、第五條ノ七、第五條ノ八及第

八條乃至第十條ノ規定ハ酒販組合聯合

會、全國酒販組合聯合會及酒販組合中

央會ニ之ヲ準用ス

第十條ノ十 酒販組合、酒販組合聯合

全國酒販組合聯合會及酒販組合中央會

ハ法人トス

第十條ノ十一 酒造組合、酒造組合聯合

會、酒造組合中央會、酒販組合、酒販

組合聯合會、全國酒販組合聯合會及酒

販組合中央會（以下酒類業團體ト稱ス）

關スル國策ノ遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

第十條ノ四 酒販組合及命令ヲ以テ定ム

ル酒類販賣業者ハ共同ノ目的ヲ達スル

ア定ムル酒造組合ハ共同ノ目的ヲ達スル

ル爲酒造組合中央會ヲ設置スルコトヲ

第六條ノ四 酒造組合聯合會及命令ヲ以

ル爲道府縣ヲ一區域トスル酒販組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

第十條ノ五 酒販組合聯合會ハ共同ノ目

的トス

第十條ノ六 全國酒販組合聯合會及命令ヲ以

ル酒類販賣業者ハ共同ノ目的ヲ達スル

ア定ムル酒造組合ハ共同ノ目的ヲ達スル

ル爲酒造組合中央會ヲ設置スルコトヲ

第六條ノ七 中第三條ノ二ノ下ニ「第四

的ヲ達スル爲全國ヲ區域トスル全國酒販組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

第十條ノ九 全國酒販組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル酒類販賣業者ハ共同ノ目的ヲ達スル爲酒販組合中央會ヲ設置スルコトヲ得

第十條ノ十 全國酒販組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル酒類販賣業者ハ共同ノ目的ヲ達スル爲酒販組合中央會ニ從ハシムルコトヲ得

第十條ノ十一 組合員ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他の從業者カ其ノ營業ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第十條ノ十二 組合員ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他の從業者カ其ノ營業ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第十條ノ十三 組合員ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他の從業者カ其ノ營業ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第十條ノ十四 組合員ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他の從業者カ其ノ營業ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第十條ノ十五 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得

第十條ノ十六 酒類業團體ノ證票若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證票若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條ノ十七 酒類業團體ノ役員、清算人若ハ使用人又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第十條ノ十八 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第十條ノ十九 前項ニ掲クル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第十條ノ二十 前項ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ヘ登記ノ後ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第十條ノ二十一 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ二十二 前項ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ヘ登記ノ後ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第十條ノ二十三 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ二十四 前項ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ヘ登記ノ後ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第十條ノ二十五 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ二十六 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ二十七 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ二十八 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ二十九 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ三十 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ三十一 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ三十二 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ三十三 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ三十四 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ三十五 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ三十六 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ三十七 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ三十八 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ三十九 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ四十 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ四十一 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ四十二 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ四十三 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ四十四 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ四十五 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ四十六 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ四十七 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ四十八 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ四十九 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ五十 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條ノ五十一 前項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三

千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ノ九ノ規定ニ違反シタル酒造組合員又ハ第十條ノ七ノ規定ニ違反シタル酒造組合員ノ組合員又ハ第十條ノ七ノ規定ニ違反シタル酒造組合員ノ組合員ノ罰亦前項

反シタル酒造組合ノ組合員ノ罰亦前項

ニ同シ

者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ

罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキ

ハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十條ノ十九 酒類業團體ノ役員本法ニ

基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲ス

コトヲ怠リタルトキハ五百圓以下ノ過

料ニ處ス

第十一條ノ一「酒造組合、酒造組合聯合會

及酒造組合中央會」ヲ「酒類業團體」ニ改

ム

第十一條ノ二 本法ハ命令ヲ以テ定ムル

酒類製造者又ハ酒類販賣業者ニハ之ヲ

適用セス

## 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條ノ改正規定施行ノ際現ニ存ス

ル酒造組合、酒造組合聯合會及酒造組合

中央會ノ成立ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依

ル

第十條ノ十一ノ改正規定施行ノ際現ニ存

スル酒造組合、酒造組合聯合會及酒造組合

中央會ノ登記ニ關シテハ同條第二項ノ

規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲ス

コトヲ得

清涼飲料法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十二日

衆議院議長 岡田 忠彦

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

清涼飲料稅法中改正法律案

清涼飲料稅法中左ノ通改正ス

第二條中「十二圓」ヲ「二十圓」ニ、「三十

圓」ヲ「六十五圓」ニ、「十一圓」ヲ「二十五

之ヲ定ム

日本證券取引所ニ吸收セラレタル取引所ニ課スベカリシ取引所特別稅ハ取引所稅

法第四條ノ改正規定ニ拘ラズ日本證券取引所ニ之ヲ課ス

日本證券取引所ニ吸收セラレタル取引所ニ於ケル賣買取引ニ課スベカリシ取引稅ノ納付ニ付テハ日本證券取引所其ノ保證ノ責ニ任ズ

日本證券取引所ニ吸收セラレタル取引所

法第五十四條ニ依リ及送付候也

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十二日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 岡田 忠彦

第三條 消費稅ノ稅率左ノ如シ

第一砂糖

第一種 分蜜ナサル砂糖

甲 檉入黒糖及檉入白下糖但シ黒糖及白下糖ニ加工シテ製造シタルモノ茲ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

第二種 其ノ他ノ砂糖但シ氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノヲ除ク

甲 疊糖ノ重量全重量ノ百分ノ八十六ヲ超エサルモノ

乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 九圓

乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 十四圓五十錢

甲 氷砂糖 百斤ニ付 六圓七十錢

甲 氷砂糖 百斤ニ付 六圓

乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 十四圓五十錢

乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 六圓

甲 氷砂糖 百斤ニ付 六圓

乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 六圓

第三條ノ二 特別消費稅ノ稅率左ノ如シ

砂糖消費稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十二日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 岡田 忠彦

第三條 消費稅ノ稅率左ノ如シ

第一砂糖

第一種 分蜜ナサル砂糖

砂糖消費稅法中左ノ通改正ス

第二條 本法施行地ニ於テ命令ヲ以テ定

ムル用途ニ供スル砂糖、糖蜜及糖水ニ

ハ前條ノ消費稅ノ外特別消費稅ヲ課ス

第三條 消費稅ノ稅率左ノ如シ

第一種 分蜜ナサル砂糖

砂糖消費稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十二日

衆議院議長 岡田 忠彦

第三條 消費稅ノ稅率左ノ如シ

第一種 分蜜ナサル砂糖

砂糖消費稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十二日

衆議院議長 岡田 忠彦

第三條 消費稅ノ稅率左ノ如シ

第一種 分蜜ナサル砂糖

砂糖消費稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十二日

衆議院議長 岡田 忠彦

第三條 消費稅ノ稅率左ノ如シ



做シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ特別消

費税ヲ徵收ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ砂糖、糖蜜

又ハ糖水ノ所持者ニ付之ヲ準用ス

物品稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十二日

貴族院議長岡田忠彦

衆議院議長

伯爵松平賴壽殿

物品稅法中改正法律案

第一條第一項第一種第七號中「羽毛製品」

ノ上ニ「羽毛」ヲ加ヘ同種第三十四號中「及香道用具」ヲ「香道及華道用具」ニ改ム

同種第三十六號中「花輪」ノ上ニ「花」ヲ加ヘ同種ニ左ノ一號ヲ加フ

四十 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

四十一 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

四十二 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

四十三 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

四十四 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

四十五 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

四十六 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

四十七 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

四十八 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

四十九 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

五十 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

五十一 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

五十二 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

五十三 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

五十四 箱、樽其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

十一號中「調味料」ヲ「グルタミン酸ソーダ」主成分トスル調味料ニ改ム

同種ニ左ノ如ク加フ

四十二 安全剃刃

四十三 板硝子

四十四 紙及セロファン

四十五 靴塗料類

四十六 調味料

四十七 酒類粕

四十八 罐、罐、壺其ノ他類似ノ容器(通常小賣ニ用ヒザル容器ヲ除ク)

四十九 滋養強壯劑及口中劑

五十 蜂蜜

五十一 蜂蜜

五十二 蜂蜜

五十三 蜂蜜

五十四 蜂蜜

五十五 蜂蜜

五十六 蜂蜜

五十七 蜂蜜

五十八 蜂蜜

五十九 蜂蜜

六十 蜂蜜

六十一 蜂蜜

六十二 蜂蜜

六十三 蜂蜜

六十四 蜂蜜

六十五 蜂蜜

六十六 蜂蜜

六十七 蜂蜜

六十八 蜂蜜

第三種

一 餅寸 千本ニ付十五錢

二 餅、葡萄糖及麥芽糖

イ 麥芽糖化ノ方法ニ依リ製造シ

ロ 其ノ他ノ飴竝葡萄糖及麥芽

三 糖 百斤ニ付五圓五十錢

四 蜂蜜 一斤ニ付二十圓

五 蜂蜜 百斤ニ付五圓

六 蜂蜜 百斤ニ付五圓

七 蜂蜜 百斤ニ付五圓

八 蜂蜜 百斤ニ付五圓

九 蜂蜜 百斤ニ付五圓

十 蜂蜜 百斤ニ付五圓

十一 蜂蜜 百斤ニ付五圓

十二 蜂蜜 百斤ニ付五圓

十三 蜂蜜 百斤ニ付五圓

十四 蜂蜜 百斤ニ付五圓

十五 蜂蜜 百斤ニ付五圓

十六 蜂蜜 百斤ニ付五圓

十七 蜂蜜 百斤ニ付五圓

十八 蜂蜜 百斤ニ付五圓

十九 蜂蜜 百斤ニ付五圓

二十 蜂蜜 百斤ニ付五圓

二十一 蜂蜜 百斤ニ付五圓

二十二 蜂蜜 百斤ニ付五圓

二十三 蜂蜜 百斤ニ付五圓

二十四 蜂蜜 百斤ニ付五圓

二十五 蜂蜜 百斤ニ付五圓

二十六 蜂蜜 百斤ニ付五圓

前項ノ場合ニ於テハ前項ノ團體ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付ス

ルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

改正規定ニ依リ物品稅ヲ課スルコトト爲ス

リタル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又

ハ同第二種ノ物品若ハ蜂蜜ノ製造ヲ爲ス

者本法施行後一月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ニ於テ物品

稅法第十五條ノ規定ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第六條中「又ハ調味料」ヲ「調味料、靴塗料類、滋養強壯劑又ハ口中劑」ニ改ム

第七條 第二種又ハ第三種ノ物品ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做ス

セラレタルトキ但シ綠茶又ハ蜂蜜ガ飲用又ハ食用ニ供セラレタルトキヲ除外

二 製造場内ニ於テ第二種又ハ第三種ノ物品以外ノ物品ノ原料トシテ使用セラレタルトキ

ノ物品ノ一號ヲ削除シタルトキ

第十二條第一項第一號中「第二種ノ物品」ヲ「第二種又ハ第三種ノ物品」ニ改メ同項第一號ヲ削除シタルトキ

第二十四條中「第三號」ヲ「第二號」ニ改ム

第二十五條中「飴」ヲ「飴若ハ蜂蜜」ニ改ム

第二十五條ノ二 政府ハ第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ノ組織スル團體ニ對シ徵稅上必要ナル施設ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項第一號ノ物品中命令ヲ以テ定ムルモ



## 第一種ノ場所

入場料ガ一人一回五十錢未満ノモノ

入場料ノ百分ノ二十

入場料ガ一人一回三圓未満ノモノ

入場料ノ百分ノ四十

入場料ガ一人一回五圓未満ノモノ

入場料ノ百分ノ九十

入場料ガ一人一回五圓以上ノモノ

入場料ノ百分ノ百二十

回數、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタルモノ

入場料ノ百分ノ六十

入場料ガ一人一回五圓未満ノモノ

入場料ノ百分ノ九十

入場料ガ一人一回五圓以上ノモノ

入場料ノ百分ノ百二十

## 第二種ノ場所

入場料ノ百分ノ二十

入場料ノ百分ノ三十

入場料ノ百分ノ五十

入場料ノ百分ノ六十

入場料ノ百分ノ九十

入場料ノ百分ノ九十

## 第三種ノ場所

入場料ノ百分ノ三十

入場料ノ百分ノ九十

ルヲ問ハズ前條ニ規定スル運動競技ノ  
主催者ガ該競技場ニ入場スル者ヨリ其  
ノ入場ニ付取得スペキ金額ヲ謂フ  
特別入場料ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以  
テ之ヲ定ム

第十二條 特別入場税ハ第九條ニ規定ス  
ル運動競技ノ主催者ヨリ之ヲ徵收ス
第十四條 第九條ニ規定スル運動競技ノ  
主催者ハ該競技終了後直ニ其ノ特別入  
場料金ヲ稅率ノ區別ニ從ヒ區分シテ記  
載シタル申告書ヲ政府ニ提出スベシ但  
シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ翌月
第六十六條ノ三 第一種ノ催物若ハ設備ノ  
ル運動競技ノ主催者ヨリ之ヲ徵收ス
第十七條ノ三 第一種ノ催物若ハ設備ノ  
主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ  
經營者ノ代理人、戸主、家族同居者、  
雇人其ノ他ノ從業者が其ノ業務ニ關シ  
本法ヲ犯シタルトキハ其ノ第一種ノ催  
物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第  
二種ノ場所ノ經營者ヲ處罰ス
第六十六條ノ四 第一種ノ催物若ハ設備ノ  
主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ  
經營者ノ代理人、戸主、家族同居者、  
雇人其ノ他ノ從業者が其ノ業務ニ關シ  
本法ヲ犯シタルトキハ其ノ第一種ノ催  
物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第  
二種ノ場所ノ經營者ヲ處罰ス

## 第十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團  
體ハ入場稅ノ課稅標準タル入場料ニ對  
シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ
第十九條 政府ハ第一種ノ催物若ハ設備  
ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所  
ノ經營者ノ組織スル團體ニ對シ徵稅上  
必要ナル施設ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補  
助ヲ爲スペキコトヲ命スルコトヲ得
第六條ノ二 特別入場稅ハ運動競技ノ  
終了後二十日以内ニ納付スベシ但シ前  
條第一項但書ノ場合ニ於テハ翌月末日  
迄ニ之ヲ納付スベシ
第十四條ノ二 特別入場稅ハ運動競技ノ  
終了後二十日以内ニ納付スベシ但シ前  
條第一項但書ノ場合ニ於テハ翌月末日  
迄ニ之ヲ納付スベシ
第十六條 許偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ  
入場稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル  
者ハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル  
稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ  
其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓  
ニ満タザルトキハ之ヲ二十圓トス
第十六條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル  
者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一 第六條ノ二第一項ノ規定ニ依ル申  
告ヲ怠リ又ハ詐リタル者
第十六條ノ二 第一種ノ催物第一種ノ催物  
ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所  
ノ經營者ヨリ之ヲ徵收ス
二 政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物  
ノ催物ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二

## 種ノ場所ヲ經營シタル者

## 若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二

## 種ノ場所ヲ經營シタル者

前項第二號ニ規定スル者ニ付テハ直ニ  
其ノ入場稅ヲ徵收ス

## 第七條ノ二 第十六條ノ罪ヲ犯シタル

## 本法ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タ

## 第八條ノ二 第十六條ノ罪ヲ犯シタル

## 本法ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タ

## 第九條ノ二 第十六條ノ罪ヲ犯シタル

## 本法ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タ

## 第十條ノ二 第十六條ノ罪ヲ犯シタル

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 岡田 忠彦

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行前ニ徵收シ又ハ徵收スペカリシ  
入場稅又ハ特別入場稅ニ關シテハ仍從前  
ノ例ニ依ル

特別行為稅法案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議  
院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和十八年二月十二日



右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

貴族院議長伯爵松平賴壽殿  
衆議院議長岡田忠彦

輸出スル物品ニ對スル内國稅免除又ハ  
交付金交付ノ停止等ニ關スル法律案  
一条

糖水、揮發油、骨牌、物品稅法第一條  
ニ掲グル物品、糖果又ハ果實蜜若ハ之

ニ類ノルモノニシテ輸出スルモノニ付  
酒稅法、清涼飲料稅法、砂糖消費稅法、  
軍機由說法、トヨタ記述、戰刀削減免去

又ハ物品稅法ニ規定スル内國稅ノ免除  
又ハ交付金ノ交付ニ關スル規定ハ當分

ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

ヨリ輸入スルモノニ付テハ命令ノ定ム  
ル所ニ依リ前條ニ掲タル稅法ニ依リ課

第三條 大正九年法律第五十一號ハ之ヲ  
受ニシテ

附  
則

本法ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行

昭和十八年三月三十一日以前ニ輸出シ又  
ハ朝鮮ニ移出シタル酒類、清涼飲料、砂  
糖、糖蜜、糖水、揮發油、骨膠、物品稅  
法第一條ニ掲タル物品、糖果竝ニ果實蜜  
及之ニ類スルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ

卷八

〔國務大臣賀屋興宣君演壇ニ登ル〕  
○國務大臣（賀屋興宣君）　只今議題トナリ  
マシタ稅法改正法律案十二件ノ政府提出法  
律案ニ付キマシテ、一括シテ其ノ概要ヲ說  
明致シマス、大東亞戰爭ガ決戦段階ニ入ル  
ニ伴ヒマシテ、戰力增强ノ爲、必要ナル財  
政支出ハ愈々増加致ス見込デアリマシテ、  
豫算編成上更ニ一段ト重點主義ヲ強化スル  
ト致シマシテモ、今後ニ於ケル我が國歲出  
ノ總額ガ、大イニ膨脹スペキコトハ豫見シ  
得ル所デアリマス、一面最近ニ於ケル國民  
經濟運營上ノ要請ニ照シテ考ヘマスレバ、  
此ノ際、極力消費ノ節約、國民購買力ノ吸  
收ヲ圖リ、物資、勞力資金等、國家ノ經濟  
總力ヲ戰力增强ニ集中スルノ必要、特ニ切  
ナルモノガアルノデアリマス、政府ト致シ  
マシテハ、此ノ財政需用ノ増加ニ備フルト  
共ニ、增稅ガ國民經濟及ビ國民生活ニ及ス  
影響等ニ付キマシテ、慎重考究ヲ遂ゲタル  
結果、今回臨時軍事費ノ財源ノ一部ニ充ツ  
ル爲、間接稅ヲ中心トスル增稅ヲ行ヒ、之  
ニ必要ナル稅法ノ改正ヲ行フコトト致シマ  
スルト同時ニ、現下ノ情勢ニ顧ミ、產業ノ  
再編成、資金ノ蓄積、其ノ他戰時下ニ於テ  
緊要ナル諸政策ノ圓滑ナル遂行ニ資スル爲、  
ハデアリマス、先づ今次增稅案ノ作成ニ當  
リマシテハ、決戰下ニ於ケル國民生活ノ確  
保及ビ國民負擔力ノ關係等ヲ考慮致シマシ  
テ、奢侈的消費ニ對シテハ特ニ高率ノ課稅  
ヲ爲スト共ニ、決戰下トシテハ尙節約可能  
ナリト認メラル、方面ノ消費ニ對スル課稅  
ニ付、稅率ヲ引上げ又ハ課稅範圍ヲ擴張ス  
ル爲、酒稅其ノ他ノ間接稅ニ付改正ヲ行フ

外、年別行爲税ヲ創設セムトスルモノニアリマス、尙是等間接税ノ課税対象ト爲シ得ル課税物件ニ付、増徴税額ニ相當スル價格ノ引上ヲ行ヒマスコトハ、間接税ノ性質及ビ今次増税ノ趣旨等ニ照シ、之ヲ認メルコト致シタゞ考デアリマス、次ニ今回ノ増税案ノ内容ノ概略ヲ御説明致シマス、先づ酒税ニ付キマシテハ、主トシテ庫出稅ノ引上ヲ行ヒ、總稅額ニ於テ大體十割程度ノ増徴ヲ行フコト致シタノデアリマス、酒類中消費高ノ最モ多イ清酒ニ付テ申シマスレバ、之ヲ第一級酒乃至第四級酒ノ四階級ニ區分シ、特ニ品質ノ優良ナル第一級酒ニ付テハ、現在造石税ト庫出稅トヲ合シ一石ニ付百五十三圓デアリマスノヲ、一石ニ付五百十五圓ニ引上ダルコトト致シテアリマス、第四級酒ニ付テハ、同ジク百圓デアリマスルノヲ、ソレベシ三百四十圓、二百十圓、及び二百圓ニ引上ダルコトト致シテアリマス、其ノ他ノ酒類ニ付テモ、必要ニ應ジ、品質等ニ依リ差等ヲ設ケツ、清酒トノ權衡ヲ保持スルヤウ、主下シテ庫出稅ニ付適當ト認ムル税率ノ引上ヲ行フコトト致シテ居ルノデアリマス、尙生産力擴充關係、產業其ノ他ノ重要產業ニ從事スル勞務者等ニ對シテ持スルヤウ、主下シテ庫出稅ニ付適當ト認ムル税率ノ引上ヲ行ヒマスルガ、酒類ノ生產配給ニ付テハ、今次増税ノ適正ナル實施及びアルコト致シテアルノデアリマス、次ハ酒造組合法デアリマスルガ、酒類ノ生產配給ノ外、清酒、燒酎等ノ若干數量ヲ限り、低廉ナル價格ヲ以テ供給スル爲、特ニ稅率ヲ引上ダルコト致シテアルノデアリマス、次ハ現下ニ於ケル酒類ノ需給狀況等ニ鑑ミマシテ、其ノ統制ヲ強化スルノ必要ガ認メラレマスノデ、從來ヨリ設置セラレ居ル酒造組合ノ外、更ニ合成清酒等ノ製造者ニ對シテモ、ソレベシ酒造組合ヲ設置セシムルト

共ニ配給部門ニ於キマシテモ、酒類販賣業者ノ團體ヲ系統的ニ整備確立セシメ、以テ酒類ノ生産及配給ニ亘リ、統制ニ關スル機能ヲ擴充強化セシムル爲、必要ナル改正ヲ行フコトト致シタノデアリマス、次ニ清涼飲料稅ニ付キマシテハ、總稅額ニ於テ十割程度ノ增徵ヲ行フノ案デアリマス、増徵割合ハ、第一種玉「ラムネ」ニ輕ク、第三種「ソーダ」水等ニ重クナツテ居リマス、次ニ取引所稅中、取引稅ニ付キマシテハ、株式ノ資質取引ニ對スル現行稅率萬分ノ五ヲ萬分ノ八ニ、萬分ノ七ヲ萬分ノ十二引上ガマスル外、日本證券取引所法ノ制ニ伴ヒ、取引所稅法ニ付必要手ル改正ヲ行フコトト致シテアリマス、次ニ砂糖消費稅ニ付キマシテハ、一般的ノ增徵トシテハ、他ノ消費稅ニ比較シテ輕ク致シマシテ、總稅額ニ於テ大體二割程度ノ増徵ト相成ツテ居リマスルガ業務用、加工用ノ砂糖等ニ付キマシテハ、其ノ消費ノ性質ニ顧ミマシテ、或程度負擔ヲ加車ベルヲ適當ト認メ、一般ノ消費稅ノ外更ニ百斤ニ付キ五圓又ハ十圓ノ稅率ヲ以テ特別消費稅ヲ附加シテ課稅スルコト致シタノデアリマス、次ニ物品稅テアリマスルガ、物品稅ノ中第一種及第二種ハ御承知ノ如ク奢侈的性質ヲ有スル物品、茲ニ國民生活上比較的不急ト認メラレ、又ハ其ノ消費ガ負擔力ヲ示スト認メラル、物品ニ付キマシテ、廣く課稅スルモノデアリマスルガ、其ノ他ニ付テハ、現行稅率百分ノ十又ハ二十、ヲ百分ノ十乃至百分ノ二十トシ、尙第一種乙類物品中、一定價格以上ニシテ奢侈的色彩強キモノハ、稅率ヲ特ニ百分ノ六十ト

致シマシタ、是ト共ニ現行ノ課稅最低限ハ  
或程度引下ゲ、又課稅物品ノ擴張ヲ行フコ  
トシタノデアリマス、而シテ新タニ課稅  
スル物品ノ大部分ハ、百分ノ十ノ稅率ヲ以  
テ課稅スルコトト致シテアリマス、物品稅  
中第三種ニ付キマシテハ、「マツ」ノ現行稅率  
千本ニ付十錢ヲ、千本ニ付十五錢ニ引上ゲ  
タル外、砂糖トノ權衡ヲ考慮シ、飴、「サッ  
カリン」等ニ付テ、増徵ヲ行フト共ニ、新タ  
ニ蜂蜜ニ對シテモ課稅スルコトト致シタノ  
デアリマス、次ニ遊興飲食稅ニ付キマシテ  
ヘ、現下ノ情勢ニ顧ミ、相當大幅ノ增稅ヲ  
行フコトト致シマシタ、即チ其ノ最高稅率  
百分ノ百ヲ百分ノ二百ニ引上ゲ、其ノ他ノ  
稅率ニ付テモ相當ノ引上ヲ行フト共ニ、宿泊  
料金ニ對スル課稅最低限ノ引下ゲ、其ノ他  
ノ他課稅範圍ノ擴張ヲ行フコトト致シマシ  
タ、以上ノ増徵ニ依リ遊興飲食稅ハ總稅額  
ニ於テ大體七割程度ノ增加トナル見込ニア  
リマス、次ニ入場稅ニ付キマシテハ、現行  
稅率百分ノ二十乃至百分ノ八十ヲ、百分ノ  
二十乃至百分ノ百二十ト致シマスト共ニ、  
特別入場稅ニ付テモ或程度ノ增徵ヲ行フコ  
トト致シタノデアリマス、次ニ從來外國ニ  
輸出スル物品及ビ内地、臺灣、樺太ヨリ朝  
鮮ニ移出スル物品ニ付テハ、內國稅ヲ免除  
シ、又ハ交付金ヲ交付シテ參タノデアリマ  
スガ、現下ニ於ケル交易情勢及ビ行政ノ簡  
素化等ヲ考慮シ、之ヲ停止又ハ廢止スルコ  
トト致シタノデアリマス、新稅ト致シマシ  
テハ、特別行為爲稅ヲ創設スルコトト相成ヅテ  
居リマス、特別行為爲稅ハ、寫眞ノ撮影、整  
髪、美容、織物衣類ノ染色仕立、書畫ノ表裝、  
印刷製本等ニ付テハ、其ノ消費ノ性質ニ鑑  
ミ、ホノ消費稅トノ權衡上、此ノ際或程度

ノ負擔ヲ爲サシムルヲ演當ト認ヌラレルノミナズ、之ニ課税スルコトニ依リ、消費ノ節約、購買力ノ吸收ニモ資シ得ルトノ見地ヨリ、是等ノ行爲ニ對シ、印刷製本ニ付テハ百分ノ二十、其ノ他ニ付テハ百分ノ三十分ノ税率ヲ以テ課税セムトスルノデアリマス、尤モ寫眞ノ撮影、整髪美容等ニ付テハ、ソレハ演當ト認ムル課税最低限ヲ設クルコトト致シテアリマス、以上述べマシタ如ク、今回ハ主トシテ間接税ヲ中心トスル兼稅デアリマシテ、育養稅ニ付キマシテハ昨年ニ於テ相當大幅ノ増稅ヲ爲シタコトデモアリマスノデ、戰時國民生活諸般ノ様相等ヲ種々考慮ノ結果、今回ハ之が増徵ヲ見合セルコトト致シタノデアリマスルガ、臨時利得稅ニ付テハ演當ト認ムル改正ヲ行フコトト致シマシタ、即ち臨時利得稅ニ付キマシテハ、從來ハ法人ニ付テハ、昭和十一年以前三年以内ニ終了シタル事業年度ノ平均利益率ヲ某准利益率トシマシテ、某准利益率以下ノ部分ニ付テハ、稅率ヲ低ク致シテ居シノデアリマスガ、基準年度ヨリ既ニ相當年數ヲ經過致シタ爲ニ、之ヲ基準トスルコトガ必ズシモ適當デナトイト認メラレルノデアリマス、仍テ今回之ヲ廢スルコトト致シタノデアリマス、又個人ノ營業者ニシテ利益金額少額ナルモノニ對シテハ、施行ノ實情ニ鑑ミ、負擔緩和ノ規定ヲ設クルコトト致シタノデアリマス、次ニ臨時租稅措置法ノ改正ニ付説明致シマス、其ノ改正ノ第一ハ、時局下愈々緊切ナリト認ヌラレル産業ノ再編成ニ關スルモノニアリマシテ、時局ノ要請ニ依ル企業ノ合同整理ノ場合ニ於テハ、現在法人稅、所得稅、營業稅等ヲ減輕又ハ免除シテ出ルノデアリマスガ、最近

ニ於ケル企業合同ノ進捗ノ状況ニ顧ミマシテ、右ノ輕減免除ノ期間ヲ一年間延長スルコト致シマシタ、其ノ外、右ノ企業合同ノ場合ニ於テ營業ヲ廢止シタ者ノ受クル補償金ニ付、所得税ヲ輕減又ハ免除スルコトニ爲シ、又事業ノ継続ノ必要上、不動産鑲査權等ヲ讓渡シタル者ニ對シテモ、讓渡利得ノ計算ニ付特例ヲ設クルコト致シタノデアリマス、第二へ、最近ニ於ケル經濟狀況ヨリ見マスルトキハ、個人ノ營業利益ガ、各種ノ事情ニ依リ相當激減ニ變動スルヲ免レ難イノデアリマスガ、此ノ場合ニ於テ、前年ノ實績ニ依リ所得税、營業税等ヲ課稅致シマスルコトハ、其ノ負擔が相當困難ナル場合モ考ヘラレマスルノデ、營業利益ガ著シク減少シタ者ニ對シ、所得税、營業税等ヲ或程度輕減スルコト致シタノデアリマス、第三ニヘ、法人ガ額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタ場合ニ於ケル、額面超過金額ニ對シテハ、企業基礎ノ強化、資金ノ蓄積等ノ見地ヨリ、負擔ヲ輕減スルヲ適當ト認メ、課稅上ノ特例ヲ設クルコト致シタノデアリマス、第四ハ、事業ノ継続ノ必要上、設備其ノ他ヲ讓渡シタル法人ガ、時局ノ要請ニ應ジ、行政官廳ノ指導斡旋ニ依リ解散セザル場合ニ於テハ、法人税、營業税等ヲ輕減シ得ル途ヲ開イタノデアリマス、今次増稅等ニ依リマスシテ、平年度ニ於テ約十一億四千五百萬圓、十八年度ニ於テ約十億七百萬圓ノ國庫收入ノ増加トナル見込デアリマス、而シテ昭和

十八年度ノ増政見込額ニ相當スル金額ハ、之ヲ臨時軍事費追加预算ノ財源ノ一部トシテ、一般會計ヨリ同會計へ繰入レマスコトハ先ニモ申上ゲタ通リテアリマス、尙入場稅、遊興飲食稅等ノ一部ハ、地方分與稅中ノ配付稅トナシテ居リマスル關係上、今回ノ增稅等ニ伴ヒマシテ、配付稅ノ割合ヲ改正スルノ必要ガアリマスノデ、地方分與稅法ニ付テモ必要アル改正ヲ行フコトト致シタノデアリマス、以上稅制ノ改正等ニ關スル法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ申上ゲタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望スル次第アリマスヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵戸澤正巳君　只今議題トナリマシタ  
臨時利得稅法中改正法律案外十一件ノ特別委員ノ數ヲ二十七名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵齋村家治君　賛成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ヲマイマセヌカ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)　御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(高田書記官朗讀)

臨時利得稅法中改正法律案外十一件特別委員

公爵徳川　家正君	公爵二條　弼基君
侯爵井上　三郎君	伯爵酒井　忠正君
子爵大河内　輝耕君	子爵西尾　忠方君
子爵梅園　篤彦君	子爵綾小路　謹君
子爵牧野　康熙君	小林　一三君
小倉　正恒君	松本　恭治君
柴田善三郎君	安君
男爵岩村　一木君	太郎君

男爵島津 忠彦君 男爵倉富 鈎君

坂野鉄次郎君 唐澤 俊樹君

安宅 繩吉君 野村 德七君

橋本辰二郎君 松本勝太郎君 岩田 三史君

中島徳太郎君 中野 敏雄君

昭和十八年度一般會計歲出ノ財源ニ充  
ツル爲公債發行ニ關スル法律案

第一條 政府ハ昭和十八年度一般會計歲

出ノ財源ニ充ツル爲他ノ法律ニ依リ起

債シ得ル全額ノ外十四億六千九百萬圓

ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲ス

コトヲ得

第二條 政府ハ昭和十八年度一般會計歲

出豫算翌年度繰越額ノ財源ニ充ツル爲

他ノ法律ニ依リ起債シ得ル全額ノ外昭

和十九年度ニ於テ公債ヲ發行シ又ハ借

入金ヲ爲スコトヲ得但シ前條ノ規定ニ

依ル公債又ハ借入金ト通ジテ前條ノ制

限額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三條 前二條ノ規定ニ依ル公債ノ發行

價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合

ニ於テハ前二條ノ制限以外ニ公債ヲ發

行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツ

ル爲公債發行ニ關スル法律案中別紙ノ通

議院法第三十條ニ依リ修正ス

昭和十八年二月八日

内閣總理大臣 東條 英機

第一條中「十四億六千九百萬圓」ヲ「三十

一億八千六百三十萬圓」ニ修正ス

營繕用品資金特別會計法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日

衆議院議長 岡田 忠彦

貴族院議長伯爵松平 賴壽殿

營繕用品資金特別會計法案

營繕事業ノ用品ヲ購入貯藏及加

工シ大藏省營繕管財局司掌ノ營繕事業

ノ需用ニ應ズル爲營繕用品資金ヲ置キ

其ノ歲入歲出ハ之ヲ一般會計ト區分シ

特別會計ヲ設置ス

本會計ニ屬スル營繕用品ハ必要ニ依リ

他ノ官廳ノ需用ニ應ジ之ヲ使用スルコ

トヲ得

第三條 营繕用品資金ハ五百萬圓トシ漸

次國有財產整理資金特別會計ヨリ繰入

ルルモノトス

第三條 本會計ニ屬スル營繕用品ヲ使用

スルトキハ大藏省營繕管財局司掌ノ營

繕事業所屬ノ經費ヲ以テ之ヲ購入スペ

シ但シ第一條第二項ニ規定スル場合ニ

於テハ當該省所管ノ經費ヲ以テ之ヲ購

入スベシ

第四條 本會計ニ於テハ用品ノ賣拂代金

及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ用品

ノ購入代金、貯藏費、加工費及附屬諸

費ヲ以テ其ノ歲出トス

第五條 每會計年度ニ於テ營繕用品資金

ノ受拂算上過剩ヲ生ズルトキハ其ノ

過剩金ハ之ヲ同年度一般ノ歲入ニ繰入

ルベシ

第六條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫

算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之

ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第七條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程

ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ昭和十八年度ヨリ之ヲ施行ス

附 則

貴族院議長伯爵松平 賴壽殿

衆議院議長 岡田 忠彦

貴族院議長伯爵松平 賴壽殿

造幣局ノ資金ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日

衆議院議長 岡田 忠彦

貴族院議長伯爵松平 賴壽殿

造幣局ノ資金ニ關スル法律案

第一條 従來ノ造幣局据置運轉資本ニ二

千六百萬圓ヲ增加ス

前項ノ資本ノ増加ニ充ツル爲之ニ必要

ナル金額ヲ限リ昭和十八年度以降ニ於

テ漸次造幣局資金ノ内ヨリ繰入ルルコ

トヲ得

第二條 昭和十五年法律第七號中左ノ通

改正ス

第一項中「二千三百五萬八千百七十五

圓」ヲ「八千四百八十一萬八千二百七

十九圓」ニ、「昭和十九年度」ヲ「昭和二十

年度」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年法律第六十九號中改正法律

案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日

衆議院議長 岡田 忠彦

貴族院議長伯爵松平 賴壽殿

昭和十五年法律第六十九號中改正法律

案

斯ニ改ム

第一條中「同十七年度分」ヲ「同十八年度

附則  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参考  
昭和十五年法律第六十九號ハ大東亞戰爭ニ關スル一時賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律ナリ

樺太内地行政一元化ニ伴フ樺太廳特別會計ト他ノ會計ト他ノ會計ニ關涉ニ關スル法律ナリ

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日  
衆議院議長 岡田 忠彦  
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 岡田 忠彦

樺太内地行政一元化ニ伴フ樺太廳特別會計ト他ノ會計ニ關スル法律

樺太廳ノ通信事業並ニ鐵道事業及之ニ關聯スル自動車交通事業ニ所屬スル財產ハ

勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ通信事業特別會計又ハ帝國鐵道特別會計ノ資本ニ編入ス

左ニ掲タル公債ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

通信事業特別會計又ハ帝國鐵道特別會計ノ負擔トス

一 樺太事業公債法ニ依リ通信事業及鐵道事業ノ事業費支辨ノ爲發行シタル公債

二 樺太事業公債法ニ依リ通信事業及鐵道事業ノ事業費支辨ノ爲借入レタル借入金ノ借換ノ爲發行シタル公債

三 昭和十五年法律第八十五號ニ依リ發行シタル公債

四 前三號ニ規定スル公債ノ借換ノ爲發行シタル公債

前二項ニ規定スルモノヲ除クノ外樺太内地行政一元化ニ伴フ樺太廳特別會計ト他ノ會計トノ關涉ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則  
本法ハ昭和十八年年度ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ昭和十六年法律第二十八號中「樺太廳及樺太廳長官ノ管理ニ屬スル官署」及「樺太廳」ヲ削ル

昭和十二年法律第八十號改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日  
衆議院議長 岡田 忠彦  
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 岡田 忠彦

樺太廳ノ通信事業並ニ鐵道事業及之ニ關聯スル自動車交通事業ニ所屬スル財產ハ

勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ通信事業特別會計又ハ帝國鐵道特別會計ノ資本ニ編入ス

左ニ掲タル公債ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

通信事業特別會計又ハ帝國鐵道特別會計ノ負擔トス

一 樺太事業公債法ニ依リ通信事業及鐵道事業ノ事業費支辨ノ爲發行シタル公債

二 樺太事業公債法ニ依リ通信事業及鐵道事業ノ事業費支辨ノ爲借入レタル借入金ノ借換ノ爲發行シタル公債

三 昭和十五年法律第八十五號ニ依リ發行シタル公債

昭和十二年法律第八十號ハ通信事業特

別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金特別會計ニ取扱ニ要スル經費ニ關スル法律ナリ

附則  
本法ハ昭和十八年年度ヨリ之ヲ施行ス

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日  
衆議院議長 岡田 忠彦  
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 岡田 忠彦

樺太廳ノ通信事業並ニ鐵道事業及之ニ關聯スル自動車交通事業ニ所屬スル財產ハ

勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ通信事業特別會計又ハ帝國鐵道特別會計ノ資本ニ編入ス

左ニ掲タル公債ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

通信事業特別會計又ハ帝國鐵道特別會計ノ負擔トス

一 樺太事業公債法ニ依リ通信事業及鐵道事業ノ事業費支辨ノ爲發行シタル公債

二 樺太事業公債法ニ依リ通信事業及鐵道事業ノ事業費支辨ノ爲借入レタル借入金ノ借換ノ爲發行シタル公債

三 昭和十五年法律第八十五號ニ依リ發行シタル公債

昭和十二年法律第八十號ハ通信事業特

朝鮮簡易生命保險及郵便年金特別會計法案

附則  
本法ハ昭和十八年年度ヨリ之ヲ施行ス

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日  
衆議院議長 岡田 忠彦  
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 岡田 忠彦

樺太廳ノ通信事業並ニ鐵道事業及之ニ關聯スル自動車交通事業ニ所屬スル財產ハ

勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ通信事業特別會計又ハ帝國鐵道特別會計ノ資本ニ編入ス

左ニ掲タル公債ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

通信事業特別會計又ハ帝國鐵道特別會計ノ負擔トス

一 樺太事業公債法ニ依リ通信事業及鐵道事業ノ事業費支辨ノ爲發行シタル公債

二 樺太事業公債法ニ依リ通信事業及鐵道事業ノ事業費支辨ノ爲借入レタル借入金ノ借換ノ爲發行シタル公債

三 昭和十五年法律第八十五號ニ依リ發行シタル公債

昭和十二年法律第八十號ハ通信事業特

第七條 業務勘定ニ於テ決算上剩餘ヲ生ジタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ保険勘定及年金勘定ノ積立金ニ組入ルベシ

業務勘定ニ於テ決算上不足ヲ生ジタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ保険勘定及年金勘定ノ積立金ヨリ補足スベシ

第八條 各勘定ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第九條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝議會ニ提出スベシ

第十條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム附則

本法ハ昭和十八年度ヨリ之ヲ施行ス  
朝鮮簡易生命保険特別會計法ハ之ヲ廢止ス但シ昭和十七年度分ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

金ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシメ保険勘定ノ所屬トス  
朝鮮簡易生命保険特別會計ニ屬スル收入及支出ノ未濟額ハ之ヲ本會計ノ保険勘定又ハ業務勘定ノ收入及支出ノ未濟額トス朝鮮簡易生命保険特別會計ノ歳出豫算ニシテ翌年度ニ繰越ヲ要スルモノハ本會計ノ保険勘定又ハ業務勘定ニ繰越シ使用スルコトヲ得

臺灣事業公債法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案  
貴族院議長伯爵松平賴壽殿  
昭和十八年二月十三日

臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案  
正ス  
第二條中「二百萬圓」ヲ「五百萬圓」ニ改ム  
附則  
本法ハ昭和十八年度ヨリ之ヲ施行ス

○國務大臣(賀屋興宣君)只今議題トナリ  
マシタ昭和十八年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外九件ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ説明致シマス、昭和十八年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案ニ付キマシテ先づ由上ダマス、昭和十八年度歳入歳出總豫算竝ニ同年歳入歳出總豫算追加第一號及第二號ニ計上シタル經費ノ財源ニ充ツル

資本額四百萬圓ヲ以テシマシテハ、本事業ノ關滑ナル遂行ヲ期スルコト困難ナル狀況ト相成リマシタノテ、之ニ伴ヒマシテ樺太廳特別會計ト一般會計、通信事業特別會計、帝國鐵道特別會計等トノ間ニ、會計ニ關スル

衆議院議長岡田忠彦  
貴族院議長伯爵松平賴壽殿  
臺灣事業公債法中改正法律案  
臺湾事業公債法中改正法律案  
第一條中「二億五千八百三十萬圓」ヲ「二億七千三百四十萬圓」ニ改ム  
附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十八年二月十三日  
衆議院議長岡田忠彦  
貴族院議長伯爵松平賴壽殿  
昭和十八年二月十三日

入ノ不足ヲ補填スル爲、三十一億八千六百三十萬圓ヲ限リ公債ノ發行ヲ要スルノデアリマスガ、之ガ爲ニハ別ニ起債ノ權能ヲ得ルコトガ必要デアリマス、尙從來ノ

資本ノ増加ニ充當致シマス財源ハ、造幣局資金ノ内ヨリ使用スルノヲ適當ト認メマシ

テ、昭和十八年度以降ニ於テ漸次ニ造幣局

（議長伯爵松平賴壽君議長席ニ著ク）  
例ニ依レバ、昭和十八年度歲出豫算中若干ノ金額ハ、翌年度ニ繰越サル、結果ニナルデアラウト存ゼラマス處、其ノ繰越額ノ財源タル

公債ハ、必ズシモ之ヲ昭和十八年度内ニ於テ發行スルノ必要ハナインデアリマス、仍テ之ヲ其ノ翌年度ニ於テ發行シ得ルコトトスルノヲ適當ト認メラマス、是等ノ點ニ付キマシテ必要ナル規定ヲ設ケマスル爲ニ本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ營繕用品資金特別會計法案ニ付説明致シマス、大藏省營繕管財局ニ於テハ、同局司掌ノ營繕事業ヲ經營致シマスルノニ必要ナル營繕用品ヲ適宜ノ時期ニ購入シ、之ヲ貯藏、加工致シテ置キマスコトガ必要デアリマス、從ツテ隨時適切ニ需用ニ應ジ、以テ營繕事業ノ圓滑ナル遂行ヲ圖リマス等ノ爲、其ノ資本トシテ新タニ營繕用品資金ヲ設置スルコト致シ、其ノ歳入歳出ハ之ヲ一般ノ會計ト區分シ、特別ニ經理スルノヲ適當ト認メマス處、之ガ爲ニハ特別會計ヲ設置スルノ必要ガアリマスノテ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ造幣局ノ資金ニ關スル法律案ニ付説明ヲ申上ゲマス、造幣局ニ於ケル事業量ハ近時著シク増大致シテ

スガ、右公債ハ昭和十八年度ニ於テ一時賜金賜與ノ發令アリタル者ニ對シテモ、之ヲ交付スル公債ノ發行ハ、現行ノ昭和十五年法律第六十九號ニ依リ、昭和十五年乃至同十七年度中ニ一時賜金賜與ノ發令アリタル者ニ對シ交付スル場合ニ限ラレテ居リマス、次ニ樺太內地行政一元化ニ伴フ樺太廳特別會計ト他ノ會計トノ關涉ニ關スル法律案ニ付説明申上ゲマス、樺太內地行政一元化ニ依リマシテ、樺太廳ニ於ケル氣象、海事、航空、通信、陸運等ニ關スル事務ハ、昭和十八年度ヨリソレム、文部省、派信省、又ハ鐵道省ニ移管セラル、コトト相成リマシタノテ、之ニ伴ヒマシテ樺太廳特別會計ト一般會計、通信事業特別會計、帝國鐵道特別會計等トノ間ニ、會計ニ關スル

致サムトスルモノデアリマス、而シテ此ノ關涉ガ生ジマスル爲、之ガ處理上ノ必要ニ

臺灣事業公債法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和十八年二月十三日

基キマシテ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ昭和十二年法律第八十號改正法律案ニ付説明致シマス、過般實施ノ行政簡素化ニ依リマシテ、從來厚生大臣ノ管理ニ屬シテ居リマシタ簡易生命保険及郵便年金金ニ關スル事務ハ、之ヲ遞信大臣ノ管理ニ屬セシムルコトトナリ、又遞信省ノ遞信局及郵便局ニ於ケル簡易生命保険及郵便年金專務ノ管理ニ關スル事務ヲ、遞信大臣ノ管理ニ屬スル簡易保險局ニ於テ取扱フコトト相成リマシタル等ニ伴ヒ、昭和十二年法律第八十號ヲ改正スルノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ朝鮮事業公債法中改正法律案ニ付説明致シマス、朝鮮總督府特別會計ニ於ケル既定繼續費ノ追加額千五百五十萬圓、並十餘萬圓ノ合計額二千三百餘萬圓ニ付キシテハ、同特別會計歲計ノ現狀竝ニ其ノ經費ノ性質ニ顧ミマシテ、之ガ財源ヲ公債ニ依ルコト致シマシタル處、既定額ノ内、七百五十餘萬圓ノ合計額千九百二十餘萬圓ノ内、七八五

十餘萬圓ノ合計額二千三百餘萬圓ニ付キシテハ、同特別會計歲計ノ現狀竝ニ其ノ經費ノ性質ニ顧ミマシテ、之ガ財源ヲ公債ニ依ルコト致シマシタル處、既定額ノ内、七八五公債財源ニ依ル豫定ノ物ニ不用ト爲スベキモノ等ガ八百餘萬圓アリマスル爲、差引千五百十萬圓ダケ、現行ノ臺灣事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案ニ付説明致シマス、臺灣事業公債法中改正法律案ニ付説明致シマス、之方財源ヲ公債ニ依ルコトト致シマシタル處、既定額ノ内、公債財源ニ依ル豫定ノモノニ不用ト爲スベキモノ等ガ、四百三十餘萬圓アリマスルガ爲、差引五億五千五百三十萬圓ダケ、現行ノ朝鮮事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマス、次ニ朝鮮簡易生命保険及郵便年金特別會計法案ニ付説明致シマス、今ガアリマスルノ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ朝鮮簡易生命保険及郵便年金特別會計法案ニ付説明致シマス、今回新タニ朝鮮總督府ニ於テ經營スルコトトマスル簡易生命保險事業ノ歳入歳出ト併セ經理スルコトト致シマシテ、經營事務ノ簡捷ヲ圖ルヲ適當ト認メマシタル處、之ガ出ハ、之ヲ同總督府ニ於テ經營致シテ居リマスル簡易生命保險特別會計法ヲ廢止

シ、新タニ朝鮮簡易生命保険及郵便年金特別會計法ヲ制定スルノ必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ臺灣事業公債法中改正法律案ニ付説明申上ゲマス、臺灣總督府特別會計ニ於ケル既定繼續費港灣費ニ追加シタル新高港第二期工事施行ニ要スル經費千五百五十萬圓、並ニ既定繼續費鐵道改良費及大甲溪開發事業費ノ追加額千九百二十餘萬圓ノ内、七八五十餘萬圓ノ合計額二千三百餘萬圓ニ付キシテハ、同特別會計歲計ノ現狀竝ニ其ノ經費ノ性質ニ顧ミマシテ、之ガ財源ヲ公債ニ依ルコト致シマシタル處、既定額ノ内、七八五公債財源ニ依ル豫定ノ物ニ不用ト爲スベキモノ等ガ八百餘萬圓アリマスル爲、差引千五百十萬圓ダケ、現行ノ臺灣事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案ニ付説明致シマス、臺灣事業公債法中改正法律案ニ付説明致シマス、之方財源ヲ公債ニ依ルコトト致シマシタル處、既定額ノ内、公債財源ニ依ル豫定ノモノニ不用ト爲スベキモノ等ガ、四百三十餘萬圓アリマスルガ爲、差引五億五千五百三十萬圓ダケ、現行ノ朝鮮事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマス、次ニ朝鮮簡易生命保険及郵便年金特別會計法案ニ付説明致シマス、今ガアリマスルノ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ朝鮮簡易生命保険及郵便年金特別會計法案ニ付説明致シマス、今回新タニ朝鮮總督府ニ於テ經營スルコトトマスル簡易生命保險事業ノ歳入歳出ト併セ經理スルコトト致シマシテ、經營事務ノ簡捷ヲ圖ルヲ適當ト認メマシタル處、之ガ出ハ、之ヲ同總督府ニ於テ經營致シテ居リマスル簡易生命保險特別會計法ヲ廢止

シ、新タニ朝鮮簡易生命保険及郵便年金特別會計法ヲ制定スルノ必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ臺灣事業公債法中改正法律案ニ付説明申上ゲマス、臺灣總督府特別會計ニ於ケル既定繼續費港灣費ニ追加シタル新高港第二期工事施行ニ要スル經費千五百五十萬圓、並ニ既定繼續費鐵道改良費及大甲溪開發事業費ノ追加額千九百二十餘萬圓ノ内、七八五十餘萬圓ノ合計額二千三百餘萬圓ニ付キシテハ、同特別會計歲計ノ現狀竝ニ其ノ經費ノ性質ニ顧ミマシテ、之ガ財源ヲ公債ニ依ルコト致シマシタル處、既定額ノ内、七八五公債財源ニ依ル豫定ノ物ニ不用ト爲スベキモノ等ガ八百餘萬圓アリマスル爲、差引千五百十萬圓ダケ、現行ノ臺灣事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案ニ付説明致シマス、臺灣事業公債法中改正法律案ニ付説明致シマス、之方財源ヲ公債ニ依ルコトト致シマシタル處、既定額ノ内、公債財源ニ依ル豫定ノモノニ不用ト爲スベキモノ等ガ、四百三十餘萬圓アリマスルガ爲、差引五億五千五百三十萬圓ダケ、現行ノ朝鮮事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマス、次ニ朝鮮簡易生命保険及郵便年金特別會計法案ニ付説明致シマス、今ガアリマスルノ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ朝鮮簡易生命保険及郵便年金特別會計法案ニ付説明致シマス、今回新タニ朝鮮總督府ニ於テ經營スルコトトマスル簡易生命保險事業ノ歳入歳出ト併セ經理スルコトト致シマシテ、經營事務ノ簡捷ヲ圖ルヲ適當ト認メマシタル處、之ガ出ハ、之ヲ同總督府ニ於テ經營致シテ居リマスル簡易生命保險特別會計法ヲ廢止

シ、新タニ朝鮮簡易生命保険及郵便年金特別會計法ヲ制定スルノ必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ臺灣事業公債法中改正法律案ニ付説明申上ゲマス、臺灣總督府特別會計ニ於ケル既定繼續費港灣費ニ追加シタル新高港第二期工事施行ニ要スル經費千五百五十萬圓、並ニ既定繼續費鐵道改良費及大甲溪開發事業費ノ追加額千九百二十餘萬圓ノ内、七八五十餘萬圓ノ合計額二千三百餘萬圓ニ付キシテハ、同特別會計歲計ノ現狀竝ニ其ノ經費ノ性質ニ顧ミマシテ、之ガ財源ヲ公債ニ依ルコト致シマシタル處、既定額ノ内、七八五公債財源ニ依ル豫定ノ物ニ不用ト爲スベキモノ等ガ八百餘萬圓アリマスル爲、差引千五百十萬圓ダケ、現行ノ臺灣事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案ニ付説明致シマス、臺灣事業公債法中改正法律案ニ付説明致シマス、之方財源ヲ公債ニ依ルコトト致シマシタル處、既定額ノ内、公債財源ニ依ル豫定ノモノニ不用ト爲スベキモノ等ガ、四百三十餘萬圓アリマスルガ爲、差引五億五千五百三十萬圓ダケ、現行ノ朝鮮事業公債法ニ依ル公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマス、次ニ朝鮮簡易生命保険及郵便年金特別會計法案ニ付説明致シマス、今ガアリマスルノ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ朝鮮簡易生命保険及郵便年金特別會計法案ニ付説明致シマス、今回新タニ朝鮮總督府ニ於テ經營スルコトトマスル簡易生命保險事業ノ歳入歳出ト併セ經理スルコトト致シマシテ、經營事務ノ簡捷ヲ圖ルヲ適當ト認メマシタル處、之ガ出ハ、之ヲ同總督府ニ於テ經營致シテ居リマスル簡易生命保險特別會計法ヲ廢止

北海道鐵道株式會社所屬鐵道外十一鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案外一件ノ特別委員ニ併託サレムコトノ動議ヲ提出致シマシタ、尙司法當局者以外ニ、文部大臣及內務大臣モ委員會ニ出席サレ、其ノ所管事項ニ屬スル質問ノ答辯ヲ致サレタノデアリマシタ、又軍關係ノ政府委員、即チ陸軍法務中將、海軍法務中將モ出席シテ答辯サレタノデアリマス、又審查ニ要スル多クノ資料ヲ提出ヲ委員長ヨリ要求シ、政府ハ之ヲ差出サレマシタノデアリマス、先づ最初ニ政府側ヨリ、第七十九回帝國議會ノ協賛ヲ經テ既ニ施行サレテ居リマスル戰時刑事特別法實施ノ概況、竝ニ最近ニ於ケル思想情勢ノ説明ヲ聽取致シマシテ、質問ニ移リマシタガ、官吏殊ニ統制經濟事務ヲ掌ル者ノ瀆職事件ニ付、其ノ刑ヲ一層加重セムトスルノ意向ナキカトノ質問ニ對シ、政府側ヨリ、公務員ノ瀆職行爲ニ付テハ、檢察上終始一貫嚴重ニ其ノ刑責ヲ追及スルノ態度ヲ堅持シテ居リ、又曩ニ第七十六回帝國議會ノ協賛ヲ經テ、刑法中瀆職罪ニ關スル規定ヲ全面的ニ改正シタ際ニモ、綱紀振肅ノ點ヲ十分考慮ニ入レテ刑罰ヲ加重シテ居ルノデ、裁判ニ於テ言ヒ渡サレル刑モ逐次重キヲ加へ來シテ居ルコトアルカラ、此ノ際ハ法律ノ改正ヲナスコトナク、現行法規ノ運用ニ依ツテ所期ノ目的ヲ達シタイ考デアル、尤モ之ニ牽連シテ、強制搜査權ノ問題ノ效力ニ關スル法律案ノ特別委員會ニ併託ヲ十分ニ研究スルコトガ必要デアルカラ、之ニ關スル委員會ヲ設ケテ其ノ調查ニ當ラシメル筈デアルトノ答辯ガアリマシタ、次ニ本案ヲ提出スルニ至ツタ現實ノ必要性ニ付テノ質問ガアリマシタノデ、之ニ對シ政府之ニ關スル委員會ヲ設ケテ其ノ調査ニ當ラシメル筈デアルトノ答辯ガアリマシタ、次ニ本案ヲ提出スルニ至ツタ現實ノ必要性ニ付テノ質問ガアリマシタノデ、之ニ對シ政府之ニ關スル委員會ヲ設ケテ其ノ調査ニ當ラシメル筈デアルトノ答辯ガアリマシタ、次ニ詳細な説明ガアリマシテ、然ル後質疑ニ

事例ニ接シテ居ラズ、又斯カル事犯ノ發生セザルコトヲ望ムノデアルガ、戰時下治安確保ノ萬全ヲ期スル爲ニ立案シタノデアルトノ答辯ガアリ、又第七條ノ三及第七條ノ四ニ付テモ、戰時下其ノ治安ニ及ス影響大ナルモノガアルニモ拘ラズ、現行法規ヲ以テシテハ未ダ其ノ防止ノ完璧ヲ期シ得ラレナイモノガアルノデ、特ニ之ガ規定ヲ整備擴充スルノ必要ヲ痛感シタ次第デアルトノ答辯ガアリマシタ、而シテ憲法ニ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壊スルコトヲ目的トスル結社行動、及び私有財產制度否認ノ宣傳行爲ヲ處罰スル規定ヲ設クベシトノ本院ニ於ケル要望ハ、本法案ニ依リ解決セラレタル趣旨デアルカ、トノ質問ニ對シテハ、政府側ヨリ、右要望ノ趣旨ハ十分之ヲ尊重シ、本法案中ニ出來得ル限り採入レテ居ル積リデアル、即チ憲法ニ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壊スルコトヲ目的トスル結社行動ニ付テ言ヘバ、本法案ニ用ヒタ國政ト云フ文字ハ、國家ノ根本的政治制度ノミナラズ、其ノ機能的方面ヲモ含ムモノデアルカラ、憲法ノ定ムル統治組織ノ機能ト云フコトモ、亦當然ニ含ンデ居ルト云フコトガ出來、而シテ結社行動ニハ必ズヤ協議ヲ伴フコトデアルカラ、第七條ノ三ニ依ッテアルカラ、第七條ノ四ニ依ッテ之ヲ處罰シテ認ノ宣傳行爲ニ付テ言ヘバ、斯カル行爲ハ安寧秩序ヲ紊亂スル目的ヲ以テ著シク治安ヲ害スベキ事項ヲ宣傳スル場合ニ該ルノデアルカラ、第七條ノ四ニ依ッテ之ヲ處罰シ得ルノデアルトノ答辯ガアリマシタ、此ノ點ニ關聯シテ、政府ハ何ガ故ニ本院要望通りノ文言ニ依リ立案セザリシヤ、トノ質問ガアッタノデアリマスガ、之ニ對シ政府側ヨ

リ、本法案ニ於テハ、其ノ外ニ戰時下特ニ禁  
止ヲ要スルモノニ付テモ併セテ之ガ處罰規  
定ヲ設クル必要上、本院を望通リノ文言ニ  
依ルコトガ出來ナカッタノデ、其ノ點ハ十分  
了承ヲ請ヒタイ旨ノ答辯ガアリマシタ、尙  
私有財產制度否認ノ所爲ノ處罰ニ付テハ、  
治安維持法ニ體系的ナ規定ガ存スルバカリ  
デナク、私有財產制度否認ノ宣傳行爲ヲ處  
罰スル規定ノ如キハ、恒久法タルベキモノ  
デアルカラ、治安維持法ノ改正ニ依ルベキ  
ダト思フガ、之ヲ本法案ニ採入レテ、戰時  
ニ限ツテ禁壓セムトスル其ノ趣旨如何トノ  
質問ガアリマシタノニ對シテ、政府側  
ヨリ、今回ノ法案ノ提出ハ、戰時下特ニ必  
要ナルモノノミニ限ル方針ニ依ッタ爲、恒  
久法ノ立法形式ヲ採ラナカッタノデアルト  
ノ答辯ガアリマシタ、次ニ逐條關係ノ質疑  
トシテハ、第七條ノ三ニ付テハ、治安ヲ害  
スベキ罪ノ意義ニ關スル質問ガアリ、之ニ  
對シ政府側ヨリ、治安ヲ害スベキ罪トハ國  
家、社會、公共ノ安全ヲ妨害スル虞アル犯  
罪ヲ指スノデアルト云フ答辯ガアリマシ  
タ、又治安維持法ニハ、目的タル事項ト云  
フ用語例ガアルガ、第七條ノ三ニ於テハ  
何ガ故ニ其ノ用語例ニ依ラナカッタカト  
ノ質問ガアリマシタガ、之ニ對シテハ、  
所謂目的タル事項トスルト、餘リニ適  
用ノ範圍ガ廣クナル虞ガアルノデ、治安  
ヲ害スベキ罪ノミニ限定シタモノデアル  
ルノデハナイカトノ危惧ノ念ヲ懷ク向ガ  
アルガ、之ニ付テノ政府ノ所見如何トノ  
質問ガアリマシタノニ對シ、政府側ヨリ、

長期戦下ニ於テ一億一心ノ擧國協力一致ノ態勢ヲ堅持スルコトハ、戦争完遂ノ基礎條件デアッテ、從フテ此ノ態勢ヲ攢亂スルガ如キ惡質ノ言論事犯ニ對シテ、特別ノ手當ヲ止セムガ爲ニ規定シタモノゾ・ッテ、決シテ私有財産制度否認ノ宣傳行爲ノミナラズ、戰時ニ最モ忌ムベキ或種ノ宣傳行爲ヲ防ムトスルモノ、デナイ旨ノ答辯ガアリマシタ、又私有財産制度ヲ否認スル目的ヲ以テ、其ノ否認ノ宣傳ヲ爲ス所爲ガ、第七條ノ四ニ所謂安寧秩序紊亂ノ目的ヲ以テ著シク治安ヲ害スベキ事項ヲ宣傳シタモノト云フコトアルカラ、ソレガ暴力其ノ他ノ不法手段ニ依ルガ出來ルカ、トノ質問ガアリマシタガ、之ニ對シテハ政府側ヨリ、私有財産制度ノ否認ハ、今日ノ社會生活ノ最モ根本的ナ秩秩序ヲトナリ、又斯カル否認ノ事項ヲ宣傳スルコトデアル私有財産制度ヲ否認スルコトデアルトノ答辯ガアリマシタ、而シテ本法案中、特ニ第七條ノ三及び四ニ付テハ、其ノ贊否ニ關シ、尙慎重審議ヲ要スルモノガアリマシタノデ、シマシタ、其ノ席上、小委員會ノ委員長ヨリ成ル附託シ、小委員會ハ二日間ニ亘り熱心ニ検討ヲ加ヘ、二月九日再び本委員會ヲ開催致ルコトニ決シタコト、但シ本會議ニ於テ委員長ノ報告後、司法大臣ヨリ本法案ニ關スル政府ノ所信ニ付適當ナル言明ガアリタギリ、小委員會ニ於テハ原案ヲ無修正可決スル旨ノ報告意見ノ開陳ガアリ、他ノ委員ヨリ

モ之ヲ敷衍シテ、從來ノ本院ノ要望ト本院案トノ異ナル點ニ付テノ政府ノ將來ノ措置如何、又第七條ノ四ノ安寧秩序紊乱事項ハ警察其ノ他ニ廣ク關係スルモノデアルカラ、濫用ノコトナキヤウ、本條ノ解釋適用ニ付テハ十分ニ注意ガ必要ト思フガ、政府ノ所見如何ト質シタルニ對シマシテ、司法大臣ヨリ、本院ノ要望ハ平時法デアリ、本法案ハ戰時法デアルカラ、形式ニ於テモ相違ガアルシ、且又本法案ニ包含スル規定ノ中ニハ、之ヲ平時法化スベキモノモアラウカラ、是等ノ諸點ハ適當ノ時期ニ必ず十分考慮スル積リデアル、要スルニ本法案ハ戰時ニ於テ必要ナル諸規定ヲ掲ゲタルモノト了承セラレタイ、尙本法案立案ノ趣旨ハ、其ノ趣旨ノ屬行竝ニ實施ノ曉ニ濫用ノ端ヲ開カザルヤウ格段ノ注意ヲ致ス所存デアルトノ言明ガゴザイマシタ、更ニ一委員ヨリノ質問ニ對シ、司法大臣ヨリ、本案第七條ノ四ハ個々ノ政策ヲ批判スルニ止マルガ如キ言論ヲ處罰ノ對象トナサムトスルモノデハナイ、本條ノ趣旨ニ付テハ、檢事局長官會同、其ノ他司法警察官吏ノ訓練等ヲ通ジテ過誤ニ陥ルコトナキヤウ篤ト注意スル旨ノ言明ガアリマシタ、斯クテ討論ニ入リ二三ノ委員ヨリ、ソレドヽ適切ナル發言ヲ以テ賛成意見ノ開陳ガゴザイマシタ、此ノ意見ノ中ノアルモノヲ茲ニ御紹介ニ及ビマス、即チ一委員ガ言ハル、ニハ、本案ハ戰時立法トシテ曩ニ協賛ヲ經タル戰時刑事特別法第七條ノ國政變亂ヲ目的トスル殺人規定ヲ擴充シテ、戰時下治安ヲ維持スル爲ニ制定セラレタモノデアツテ、第七條ノ二ニハ別ニ問題ナク、第七條ノ三ハ、國政變亂ノ目的ヲ以テスル治安ヲ害スル罪ノ協議、煽動ヲ罰スル

ニ止マルノデ、法文上餘リ論議スペキモツ  
モナク、第七條ノ四ハ、國政變亂ノ外ニ、  
安寧秩序紊亂ノ目的ヲ加ヘ、著シク治安ヲ  
害スル事項、宣傳ヲ罰スルノデ、相當ニ廣  
キ規定デアル、政府ガ戰時下其ノ取締ヲ必  
要ナリトスルナラバ、我々ハ從來慣用シ來ツ  
タ法律觀念デアルカラ、之ニ協賛ヲ與フルニ  
吝ナルモノデハナイノデアルガ、政府ハ此ノ  
兩條ノ中ニ、從來貴族院ノ要望シ來ッタ憲  
法上ノ統治組織ノ機能ヲ變壞シ、私有財產  
制廃否認ノ宣傳ヲ包括シテ規定シタ旨ヲ說  
明セラレタノデ、兩條ノ内容が甚ダ複雜ト  
ナッタノデ、之ヲ明カニスル爲數回ノ委員會  
ヲ開催スルノ已ムヲ得ザルニ至ッタノデアル、  
七條ノ三ニ於テハ、治安ヲ害スル罪ノ協議、  
煽動ヲ罰スルニ止マリ、其ノ以外ノ方法ニ依  
ル行爲ハ除外セラル、ノデ、ソレダケ本院  
ノ要望ト異ナルノデアル、七條ノ四ハ、安  
寧秩序紊亂ノ中ニ、私有財產制度否認ヲ包  
含スルト說明セラル、ノデ、安寧秩序ノ觀  
念ハ、相當廣義ニ解釋セラル、ノデアル、  
私有財產制度否認ノ宣傳ヲ取締ルト云フコ  
トハ結構デアリ、本院ノ要望ニ副フ所以デ  
アルガ、他面安寧秩序ノ觀念ハ擴大セラレ  
テ、國民ノ法律生活ヲ不安ナラシムルノ虞  
ナシトシナイ、政府ハ此ノ點ニ關シ、著シ  
ク治安ヲ害スル事項ノ宣傳ニ限テ取締ルト  
説明セラル、ノデ、其ノ程度ニ於テ適用ハ  
制限セラル、次第デアルガ、安寧秩序ト云  
フコトハ、他ノ法規、殊ニ警察法規ニ澤山  
アルノデ、適用上從來ノ慣例ヲ變更セラレ  
ナイヤウニ十分留意ヲ願ヒタイ、即チ安寧  
秩序紊亂ノ中ニ、私有財產制度否認ノ宣傳  
ヲ包括セシムルトシテモ、其ノ傳統的解釋  
ヲ十分ニ保持シテ、國民ノ法律生活ヲ不安

ニ導カザルヤウニ致サレタイノデアル、而シテ我々ハ、本案ガ戰時下ノ立法デアルノト、司法大臣ノ本委員會ニ於ケル言明トニ信賴シ、他日本院ノ要望スル所ノ立法ヲ平時法トシテ制定セラレムコトヲ望ムノデアル、之ヲ以テ本案賛成ノ理由トスル、右申上ゲタノガ一委員ノ意見デアリマシタ、斯クシテ採決ノ結果、全會一致本案ヲ可決致シマシタ、尙終リニ臨ミテ申上ゲマスルガ、本委員會ニ於ケル質疑應答ハ、頗ル多岐多様デアリマシタノデ、之ヲ詳細ニ御報告致シマスノハ、徒ニ時間ヲ要シマスルノデ、極メテ其ノ要點ノミヲ摘出シテ、茲ニ申上ゲタ次第デアリマス、何卒左様御了承ヲ請ヒマス、又祕密會ヲモ開キマシタガ、其ノ内容ヲ申上ゲル自由ヲ有シマセヌコトヲモ御了承ヲ願ヒタク存ジマス、又御報告ニ漏レテ居リマスル點ハ、何卒速記錄デ御覽ヲ願ヒタイト存ジマスル、以上ヲ以テ報告ヲ終リマス

ミ、戰時ニ必要ナルモノヲ取致ズ此ノ法案ニ網羅シタノデアリマシテ、一ハ御要望ノ趣旨他ハ之ニ牽連シテ、戰爭目的遂行特ニ必要ナル事項、此ノ兩者ヲ一丸トシテ即チ戰時下必要缺クベカラザルモノヲ規定シタ次第アリマシテ、此ノ點ハ御了承ヲ願ヒタイノデアリマス、而シテ御要望ト本案ト異ル點ヤ、本案規定ノ事項等ヲ如何ニシテ平時法化スルカ、ニ付キマシテハ、適當ノ時期ニ於テ十分研究ヲ致シマシテ、御期待ニ副フベク善處シタイ考テゴザイマス、次ニ本案ノ字句ニ關シ、本案ノ解釋及適用上、濫用ニ陥ルナキヤニ付キ種々御論議アリマシタコトハ、具サニ拜聽致シタノデアリマシテ、事ハ相當重要ナル問題デアリマスカラ、司法當局ト致シマシテハ、内務當局其ノ他ノ關係各廳ト緊密ナル連絡ヲ取リマシテ、最善ノ努力ヲ傾注シテ、御懸念ノ點ニ付キ十分ノ注意ヲ加へ、立案ノ趣旨ノ徹底ニ萬全ヲ期シ、互ニ相成ヌテ其ノ運用ニ些ノ遺憾ナキヤウ、格段ノ用意ヲ以テ之ニ臨ム所存デゴザイマス、尙現下一億一心必勝ノ目的ノ爲ニ邁進スベキ折柄、國內ノ思想ノ分裂攪亂ヲ來スガ如キコトハ、強クタノ戒シムベキデアリマシテ、ソレ等ノ行為ニシテ法規ニ觸レルモノハ、嚴ニ之ヲ禁壓スペキハ勿論デアリマスガ、本案第七條ノ四ノ規定ハ、決シテ適法ナル政策ノ批判等ヲ處罰スルモノデハナイノデゴザイマス、右明白ニ申添ヘテ置キタイト存ジマス、以上〇議長(伯爵松平頼壽君) 別ニ御發言モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路子爵ノ勅議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ開題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通り御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路子爵ノ勅議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通り御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第一十五ヨリ日程第三十三迄ノ請願、會議

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ徵フ〕

## 意見書案

奥羽本線横手、羽越本線羽後本莊ノ兩驛間ヲ豫定線ニ編入シ横莊鐵道未成區間遠成ノ件

秋田縣平鹿郡橫手町羽黑末町八番地

公吏片野復次郎外九百十八名呈出

右ノ請願ハ秋田縣橫莊鐵道ノ完通ヘ横黒

線、釜石線ト相俟テ東西兩洋ヲ連絡シ經

濟上茲軍事上緊要ナルニ拘ラス同鐵道ハ

曩ニ營業線ノ一部ヲ政府ニ移管シ且老

方、前鄉間ノ未成區間存スル爲其ノ機能

ヲ發揮シ得サルモノアルニ依リ奥羽本線

横手、羽越本線羽後本莊ノ兩驛間ヲ豫定

線ニ編入スルト共ニ政府ハ該未成區間ノ

速成ヲ圖リ以テ地方產業ノ開發、輸送能

率ノ増進等ニ資セラレタントノ旨趣ニシ

テ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノ

ト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ

別冊及送付候也

昭和十八年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣東條英機殿

## 意見書案

長岡鐵道買收ノ件

新潟縣北魚沼郡農會長古田島和太郎

外十三名呈出

右ノ請願ハ新潟縣長岡鐵道ハ延長三十九

糸餘ニ及ヒ逐年貨客ノ輸送激増ノ傾向ア

ルモ設備輸送力之ニ伴ハス且運賃高率ナ

ルハ甚遺憾ナルニ依リ速ニ同鐵道ヲ買收

シ以テ地方產業ノ振興ニ寄與セラレタシ

トノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採

擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十八年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣東條英機殿

意見書案

北越線鐵道敷設ノ件

新潟縣北魚沼郡農會長古田島和太郎

外十三名呈出

右ノ請願ハ新潟縣中頸城、東頸城、中魚沼、南魚沼ノ四郡及高田市ヲ貫キ北陸線ト上越線ヲ連絡スル鐵道ヲ敷設スルハ沿線地方ニ於ケル豐富ナル農、林、工產物ノ輸送上貢獻スル所大ナルニ依リ速ニ之カ實現ヲ圖ラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十八年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣東條英機殿

意見書案

飯山鐵道買收ノ件

新潟縣北魚沼郡農會長古田島和太郎

外十三名呈出

右ノ請願ハ信越本線豊野驛ヨリ長野縣飯山町ヲ經テ新潟縣十日町ニ至ル飯山鐵道ハ延長七十五糸ニ及ヒ貨客ノ輸送移多ナルニ拘ラス近時輸送力減退シ殊ニ冬期間ノ列車運轉ハ豪雪ノ爲愈不圓滑ニ陥リ之カ利用者ノ打撃甚大ナルニ依リ速ニ同鐵道ヲ買收シテ除雪施設ノ完備ヲ計リ以テ地方產業ノ開發ト國防ノ充實トニ資セラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體

ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十八年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣東條英機殿

意見書案

古事記正解ノ研究機關設置ノ件

名古屋市中村區深川町一丁目十八番地

右ノ請願ハ古事記ハ惟神大道ノ寶典ナルニ之カ研究ヲ民間ニ委ヌル爲其ノ本然ヲ誤ルカ如キ學說ヲ生スルニ至リシハ其遺憾ナルニ依リ速ニ政府ハ古事記正解ノ研

究機關ヲ設ケ之カ正解ヲ完成シ以テ國民精神教育ノ基據ヲ與フルト共ニ國體ノ本義ヲ明徹ニシテ肇國ノ大精神ヲ宣揚セシメテレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十八年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣東條英機殿

意見書案

官幣中社生田神社造營費國庫支辨ニ關スル件

神戶市灘區上野通七丁目二十四番地

平民勝田銀次郎外二十七名呈出

右ノ請願ハ神戸市神戸區下山手通ニ鎮座セラルル官幣中社生田神社ハ稚日女尊ヲ奉齋セル社ニシテ往時ハ神域廣大ナリシモ屢次ノ市區整理ノ結果頗ル狹隘トナリ社殿等建物ノ連絡統一ヲ缺キ且損耗ノ度著シキモノアルハ寔ニ恐懼ニ堪ヘサルニ依リ地元衆庶ノ奉賽事業トシテ社殿ノ造營境域ノ整備ヲ期シツツアルモ御祭神ノ尊貴ト由緒ニ鑑ミ本殿以下主要社殿ノ御造營ハ國費ヲ以テ速ニ其ノ實現ヲ期セラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十八年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣東條英機殿

意見書案

宮城縣玉造郡鳴子町字湯元五十八番地ノ六平民芦立定外千六百二十五久呈出

右ノ請願ハ奥羽本線十文字、陸羽東線鳴子ノ兩驛線鳴子驛ニ至ル鐵道ヲ敷設スルハ沿線地方ニ於ケル豐富ナル林、礪產等ノ資源開發上裨益スル所大ナルノミナラス東京、青森間ノ捷徑トナリ運輸交通並軍事上亦須要ナルニ依リ速ニ之カ實現ヲ圖ラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十八年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣東條英機殿

意見書案

奥羽本線十文字、陸羽東線鳴子ノ兩驛線鳴子驛ニ至ル鐵道敷設ノ件

秋田縣雄勝郡稻庭町二百十七番地

右ノ請願ハ奥羽本線十文字驛ヨリ陸羽東民佐藤有秀外千三百五十二名呈出

右ノ請願ハ奥羽本線十文字驛ヨリ陸羽東

方ニケル豐富ナル林、鑄産等ノ資源開  
發ヒ裨益スル所大ナルノミナラス東京、  
青森間ノ捷徑トナリ運輸交通竝軍事上亦  
須要ナルニ依リ速ニ之カ實現ヲ圖ラレタ  
シトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ  
採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第  
六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十八年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣東條英機殿

メマス、次會ノ議事日程ハ、決定次第案報  
ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散  
會致シマス  
午後二時五十一分散會

メマス、次會ノ議事日程ハ、決定次第案報  
ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散  
會致シマス  
午後二時五十一分散會

意見書案

天龍川改修工事實施速成ノ件

長野縣下伊那郡龍丘村大字駄科七百  
三番地農代田市郎外三十七名呈出  
右ノ請願ハ天龍川ハ既ニ上流諏訪湖關係ノ  
改修成リ下流靜岡縣下ニ於テモ亦內務省  
直轄改修工事ノ實施ヲ見タルニ獨り長野  
縣下ノ中流域ハ實測基本調査ヲ完了シ  
タルノミニシテ未著工ニ至ラス年々ノ水  
渦寢ニ寒心ニ堪ヘサルモノアルニ依リ昭  
和十八年度ヨリ國ノ直轄事業トシテ速ニ  
之カ改修ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴  
族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議  
決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊  
及送付候也

昭和十八年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣東條英機殿

○議長(伯爵松平 賴壽君) 是等ノ請願ハ、  
請願委員長ノ報告通り採擇スルコトニ御異  
議ハゴザイマセヌカ  
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平 賴壽君) 御異議ナイト認

官報號外  
昭和十八年二月十六日 貴族院議事速記錄 第九號

一六八